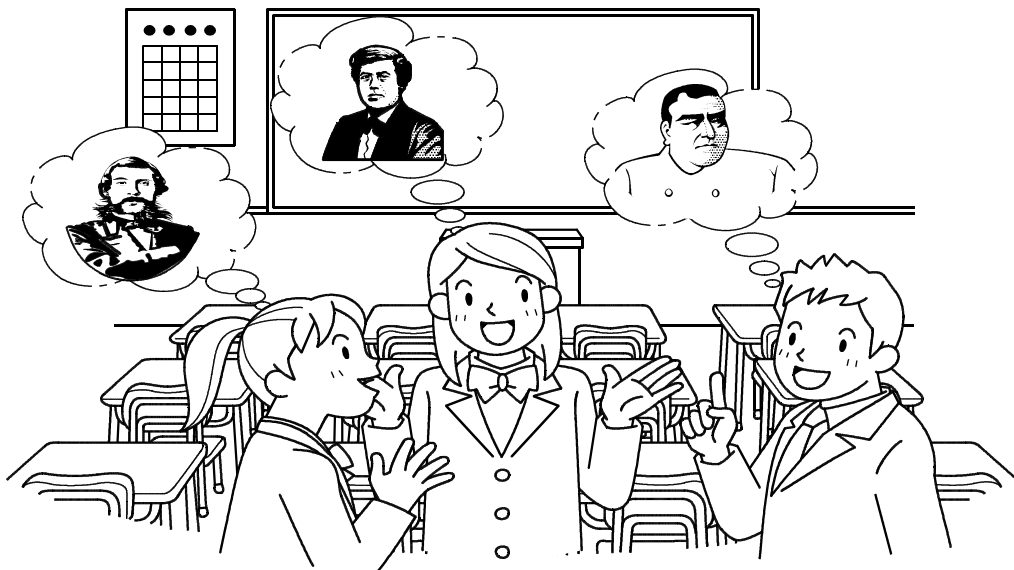


平成28年度版

資質・能力の「三つの柱」を総合的に育む授業づくりガイドブック

「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す授業改善
中学校社会科 高等学校地理歴史科・公民科編



平成29年3月

岩手県立総合教育センター

教科領域教育担当

★目次

平成28年度版

資質・能力の「三つの柱」を総合的に育む授業づくりガイドブック

「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す授業改善

中学校社会科 高等学校地理歴史科・公民科編

★ はじめに

- 学習指導要領等の改訂に向けて P. 1
- 理論構築のための授業実践について P. 2

I 育成を目指す資質・能力 「何ができるようになるか」

- 全教科等で育成を目指す資質・能力の「三つの柱」 P. 3
- 社会科の学びを通して育成を目指すもの P. 4
 - 社会科で育成を目指す資質・能力 P. 4
 - 社会科で育成を目指す資質・能力の具体的な内容（「三つの柱」） P. 4

II 資質・能力の「三つの柱」を総合的に育む授業の在り方 「どのように学ぶか」「何が身に付いたか」

- 「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善を目指して P. 5
 - 本研究の全体像 P. 5
 - 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 《5つのポイント》 P. 6

〔どのように学ぶか〕

●【ポイント1】「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた「課題解決的な学習」の充実 P. 7

- ◆ 社会科における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」とは P. 7
- ◆ 「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す「課題解決的な学習」の過程（例） P. 8

〔どのように学ぶか〕

●【ポイント2】「社会的な見方・考え方」を働かせた学びの重視 P. 9

- ◆ 「見方・考え方」は、学びの過程の中で”働かせるもの”そして”鍛えられていくもの” P. 9
- ◆ 各校種・科目・分野ごとの「社会的な見方・考え方」 P. 10
- ◆ ”「社会的な見方・考え方」を働かせる学び”についての考え方 P. 11
- ◆ 「社会的な見方・考え方」と「思考力・判断力の育成」との関係 P. 12

〔「主体的・対話的で深い学び」に導く指導上の工夫〕

●【ポイント3】「指導言」（説明・指示・発問・助言）等の工夫 P. 13

- ◆ 「指導言（説明・指示・発問・助言）」を機能させる P. 13
- ◆ 互いの考えを安心して表現できる「雰囲気づくり」に努める
- ◆ 授業に「学習活動の目標」を設定する

〔「主体的・対話的で深い学び」に導く指導上の工夫〕

●【ポイント4】「学習形態・手法」の工夫 P. 14

- ◆ 「話し合い」を機能させる P. 14
- ◆ 学習内容の定着を助ける「教え合い」活動を取り入れる

〔何が身に付いたか〕

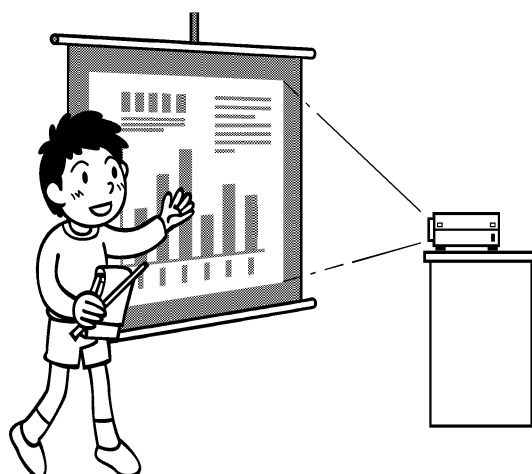
●【ポイント5】「主体的・対話的で深い学び」の充実度を評価する P. 15

- ◆ ”指導と評価の一体化”を目指す「学習評価」 P. 15
- ◆ 社会科における「評価の三観点」 P. 16
- ◆ 単元計画によるカリキュラム・マネジメント P. 17
- ◆ ”捉えにくい資質・能力”を見取る P. 18

Ⅲ 資料

【資料1】	■学校全体において育成を目指す資質・能力の設定・共有と 各教科等で育成を目指す資質・能力との関連付けの考え方	P. 19
【資料2】	■社会科における教育のイメージ	P. 21
【資料3】	■小学校及び中学校社会科において育成を目指す資質・能力 ■高等学校 地理歴史科, 公民科において育成を目指す資質・能力	P. 23 P. 24
【資料4】	■「社会的な見方・考え方」を働かせたイメージ	P. 25
【資料5】	■社会科の学習で有効と考える「学習形態・手法」(例)	P. 29
【資料6】	■社会科における「ポートフォリオ評価」の考え方(例)	P. 31
【資料7】	■社会科における「パフォーマンス評価」の考え方(例)	P. 32
【資料8】	■社会科における「ルーブリック」の作成と活用について(例)	P. 33
【資料9】	■理論構築のための授業実践	P. 35
	●指導計画の様式について	P. 35
	●全面実施に向けて	P. 35
	《事例1》 中学校	P. 36
	《事例2》 高等学校	P. 42

★ おわりに	P. 46
★ 【引用文献】 【参考文献】	P. 47
★ 【研究協力校】 【研究協力員】	P. 49



★はじめに

■ 学習指導要領等の改訂に向けて

平成27年8月、中央教育審議会教育課程特別部会は、次期学習指導要領の基本方針について「論点整理」(2015)にまとめました。その後、平成28年8月には「論点整理」を踏まえ「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ(以下「審議のまとめ」という)」(2016)が取りまとめられ、同12月に中央教育審議会教育課程部会は、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等(以下「答申」という)」(2016)が出されました。これらの中で、グローバル化による社会の多様性や急速な情報化、技術革新による人間生活の質的な変化の影響により、子供たちの成長を支える教育の在り方も新たな自体に直面していることを指摘しています。

こうした子供たちを取り巻く状況を踏まえつつ、人間が学ぶことの本質的な意義や強みを改めて捉え直し、一人一人の学びを後押しできるようこれまで改訂の中心であった「何を学ぶか」という指導内容の見直しにとどまらず、「何ができるようになるか」「どのように学ぶか」までを見据えた改訂を目指すことが示されています。

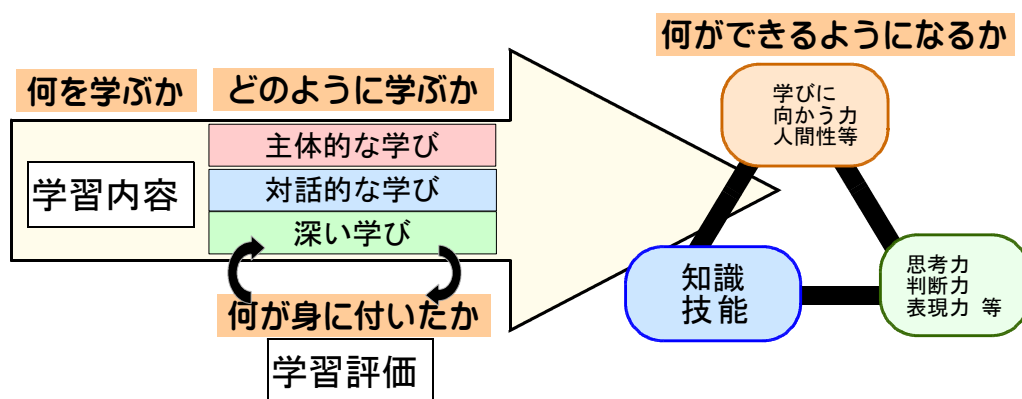
このことは、これまでの学習内容と指導方法とを分離して扱う見方を捉え直し、両者と一体的に捉えていく方向へと転換を図ったものであると言えます。

このうち「何を学ぶか」については、学習内容の削減は行わず、各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示すこととしています。

また、「何ができるようになるか」の観点では、育成を目指す資質・能力が以下の三つの柱(以下「三つの柱」という。)で整理されています。

- ① 生きて働く「知識・技能」の習得
- ② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成
- ③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養

さらに、「どのように学ぶか」に着目して、学びの質を高めるためには、「学び」の本質として重要となる「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す「アクティブ・ラーニング」の視点から授業改善の取り組みを活性化していくことが必要とされています。



こうした「答申」等に示された考え方を基に、本研究では、中学校社会科及び高等学校地理歴史科、公民科(以下「社会科」という)「三つの柱」を総合的に育むことを目指し、「主体的・対話的で深い学び」(「アクティブ・ラーニング」)の視点からの授業改善の在り方について、提案していきたいと思います。

また、授業をより充実したものにしていくために、生徒たちに「何が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉える学習評価の考え方、さらに、学習評価の内容を学習・指導方法の改善につなげていくカリキュラム・マネジメントの考え方についても合わせて示します。

■理論構築のための授業実践について

本ガイドブックは、前述したように次期学習指導要領で想定される社会科における「主体的・対話的で深い学び」（「アクティブ・ラーニング」）視点からの授業改善の在り方及び学習評価の在り方について「答申」等に示された考え方を読み解き、その解説と具現化にあたってのポイントを提案することを目指して作成しているものです。

研究1年目にあたる今年度は、研究理論の構築を目指して研究協力校及び研究協力員の先生方、生徒の皆さんにご協力いただき「答申」等に示された考え方を基づいた授業実践の機会をもたせていただきました。それにより下記のような所感を得ており、ガイドブック作成にあたり留意したところです。

2年目となる来年度は、研究理論に基づいた授業実践とその検証を行う予定です。

【県立総合教育センター研究担当者・研究協力校の教員及び研究協力員の授業実践後の所感から】

●「主体的な学び」の実現に関わって

- 単元の導入において、単元を通じた課題意識の醸成、課題意識を基にした学習の見通しをもつ学習活動を取り入れるためには、十分な吟味が必要である。
- 単元の課題設定とそれによる学習活動については、単元の学習を通して生徒の学習意欲を喚起し、「深い学び」に導くような工夫が求められる。
- 「見通し」と「振り返り」の記述・交流ありきの学習活動に陥り、定着を図るべき基礎・基本的な知識や技能の定着のための学習活動が十分確保できないことが懸念される。

●「対話的な学び」の実現に関わって

- 十分な動機付けと解決の方向性を明確にした学習場面の設定が必要である。
- 話し合いの進め方について、国語科等における学習の成果を生かしつつ、充実させていく必要がある。

●「深い学び」の実現に関わって

- 各時間に「社会的な見方・考え方」を用いた考察、構想、説明、議論等の学習を組み込んで構想したが、目指す学習活動には至らない時間もあった。単元を見通した学習の中で、思考、判断、表現する学習活動（個人⇒集団⇒個人）を精選して組み入れることで十分な学習時間を保障し、内容の充実を図ることが必要である。

◆「学習評価」に関わって

- 学習評価は、評定等を付けるためのものにとどめず、生徒の実態を見取り、伸ばすためのものとするため、それぞれの学習活動や場面に応じた効果的な評価方法について学んでいくことが急務である。

※県立総合教育センター研究担当者による授業実践時の学習指導案については、**【資料9】** (P. 35～)として掲載しております。

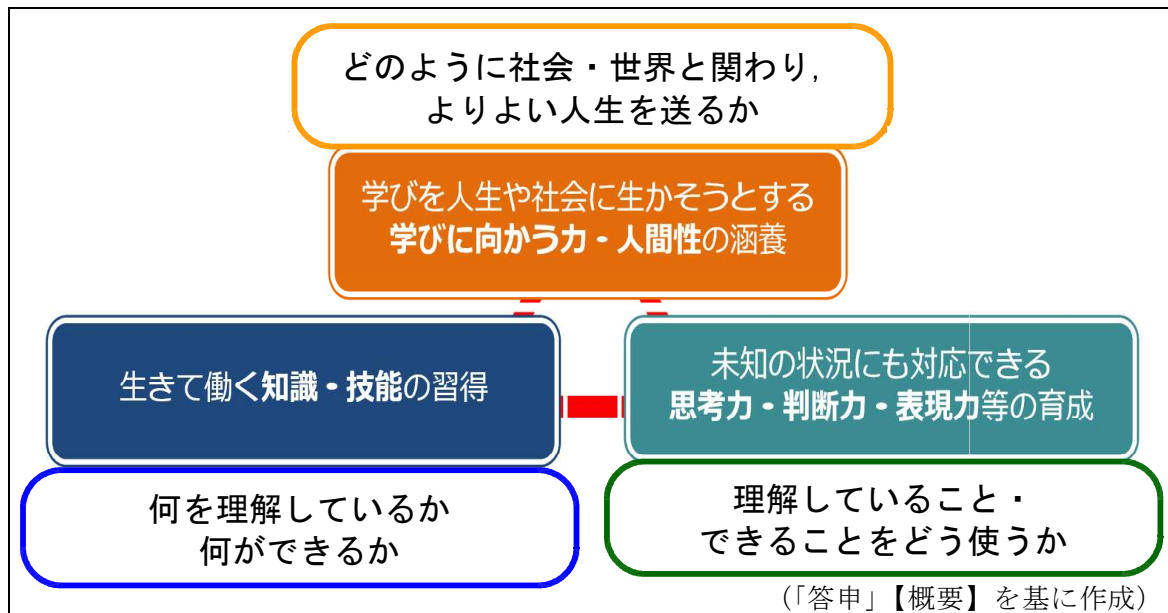
今後、中学校においては、今年度中、高等学校では29年度中に改訂がなされ、周知徹底の期間を経て、中学校では平成30年度から先行実施され、33年度からの全面実施、高等学校においては、31年度からの先行実施、34年度から年次進行で全面実施される見通しです。

本ガイドブックを基に、次期学習指導要領の考え方について理解していただくと共に想定される学習・指導方法への移行がスムーズになされ、今後の授業実践が生徒にとっても、教員にとってもより有意義なものになるよう活用していただければ幸いです。

Ⅰ 育成を目指す資質・能力 「何ができるようになるか」

■ 全教科等で育成を目指す資質・能力の「三つの柱」

「答申」では、全ての教科等で共通して育成を目指す資質・能力について、下の図の「三つの柱」で示し、それぞれの内容や留意点について、あとのように述べています。



● 生きて働く「知識・技能」の習得〔何を理解しているか、何ができるか〕

★各教科等において習得する知識や技能

- 個別の事実的な知識のみを指すのではなく、それらが相互に関連付けられ、さらに社会の中で生きて働く知識となるものを含むもの。
- 知識や技能は、思考・判断・表現を通じて習得されたり、その過程で活用されたりするもの。

● 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成 〔理解していること・できることをどう使うか〕

★将来の予測が困難な社会でも、未来を切り開いていくために必要な思考力・判断力・表現力

- 思考・判断・表現の過程には、大きく分類して以下の3つがあると考えられる。
 - ① 物事の中から問題を見出し、その問題を定義し解決の方向性を決定し、解決方法を探して計画を立て、計画を予測しながら実行し、振り返って次の問題発見・解決につなげていく過程。
 - ② 精査した情報を基に自分の考えを形成し、文章や発話によって表現したり、目的や場面、状況等に応じて互いの考えを適切に伝え合い、多様な考えを理解したり、集団としての考えを形成したりしていく過程。
 - ③ 思いや考えを基に構想し、意味や価値を創造していく過程。

● 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養 〔どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか〕

★「メタ認知」に関するもの

- ・ 主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力
- ・ 自己の感情や行動を統制する能力
- ・ 自らの思考の過程等を客観的に捉える力 等

★「人間性等」に関するもの

- ・ 多様性を尊重する態度と互いのよさを生かして協働する力
- ・ 持続可能な社会づくりに向けた態度
- ・ リーダーシップやチームワーク、感性、優しさや思いやり 等

■社会科の学びを通して育成を目指すもの

●社会科で育成を目指す資質・能力（「答申」より）

【高等学校地理歴史科・公民科】

「広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる 平和で民主的な国家及び社会の **有為な形成者に必要な公民としての資質・能力**」

【中学校社会科】

「広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる 平和で民主的な国家及び社会の形成者に **必要な公民としての資質・能力の基礎**」

◆「国家及び社会の形成者として必要な資質・能力」とは・・・

- 知識や思考力等を基盤として社会の在り方や人間としての生き方についての選択・判断する力
- 自国の動向とグローバルな動向を横断的・相互的に捉えて現代的な諸課題を歴史的に考察する力
- 持続可能な社会づくりの観点から地球規模の課題や地域課題を解決しようとする態度 など

★「社会科における教育のイメージ」については「答申」別添資料3-1をもとに資料2（P.P.21-22）に示しています。

●社会科で育成を目指す資質・能力の具体的な内容（「三つの柱」）

（「答申」を基に作成）

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ○社会的事象等に関する知識 <ul style="list-style-type: none"> ・主として用語・語句などを含めた 個別の事実等に関わる知識 ・主として社会的事象等の特色や意味，理論などを含めた社会の中で汎用的に使うことのできる 概念等に関わる知識 ○社会的事象等について調べまとめる技能 <ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象等に関する情報を 収集する・読み取る・まとめる技能
思考力・表現力等 判断力	<ul style="list-style-type: none"> ○〈思考力・判断力〉 <ul style="list-style-type: none"> ・社会事象等の意味や意義，特色や相互の関連を 考察する力 ・社会に見られる課題を把握して，その解決に向けて 構想（選択・判断）する力 ○〈表現力〉 <ul style="list-style-type: none"> ・考察したことや構想したことを 説明する力 ・考察したことや構想したことを基に 議論する力
学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ○学習対象（社会的事象等）について主体的に調べ分かれようとする態度 ○課題（学習上の課題，社会にみられる課題）を意欲的に解決しようとする態度 ○多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される自覚や愛情 <p style="text-align: right;">等</p>

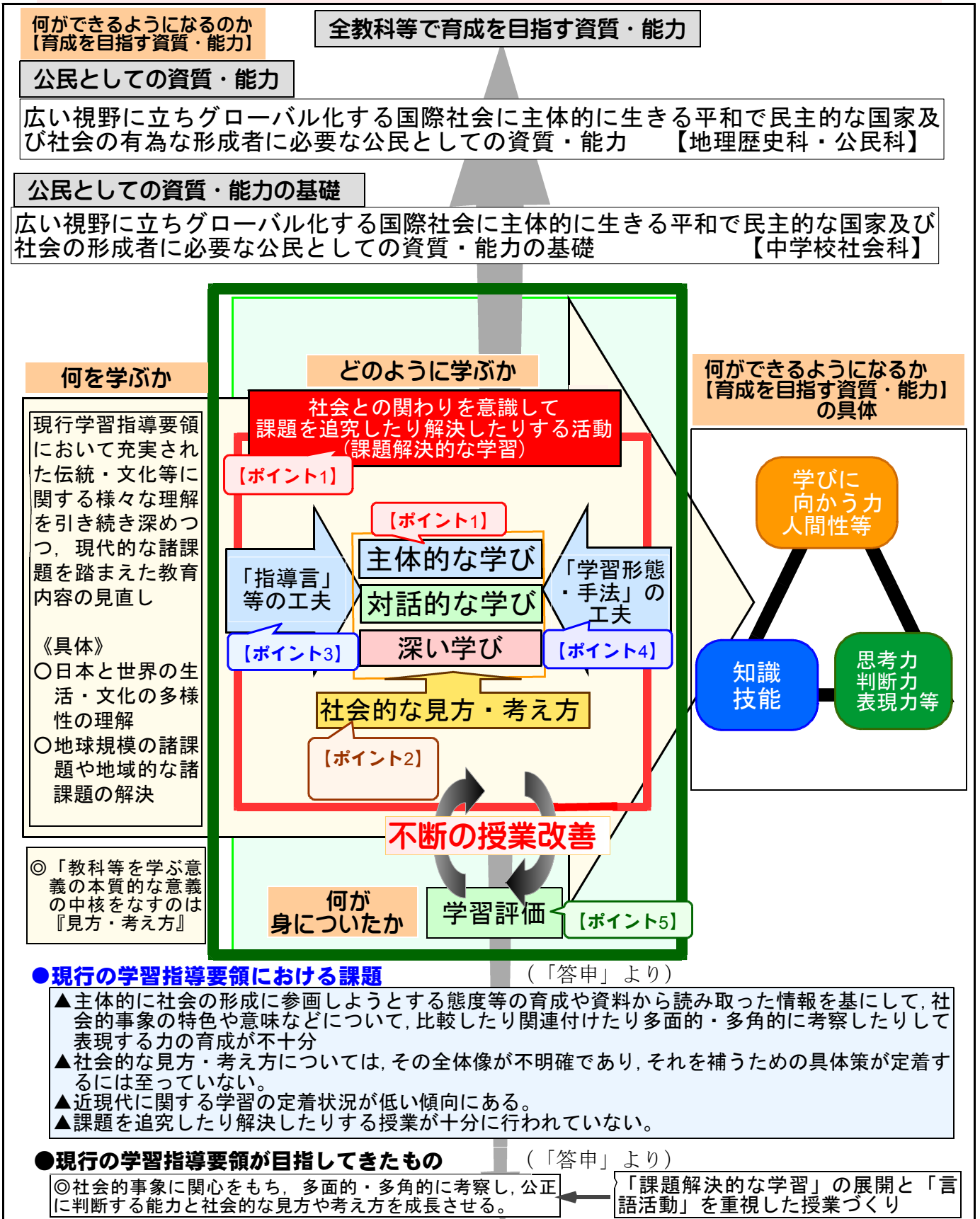
★学校全体で育成を目指す資質・能力の明確化とそれを各教科等の授業を通して実現していくための考え方については資料1（P.P.19-20）に示しています。

★中・高の校種や科目ごとに育成を目指す資質・能力については「答申」別添資料3-2をもとに資料3（P.P.23-24）に示しています。

II 資質・能力の「三つの柱」を総合的に育む授業の在り方 「どのように学ぶか」「何が身に付いたか」

● 本研究の全体像 (「答申」の考え方を基に作成)

本研究は、「公民としての資質・能力及びその基礎」の育成を目指し、 の部分に焦点をあて取り組んでいます。



● 現行の学習指導要領における課題

(「答申」より)

- ▲主体的に社会の形成に参画しようとする態度等の育成や資料から読み取った情報を基にして、社会的事象の特色や意味などについて、比較したり関連付けたり多面的・多角的に考察したりして表現する力の育成が不十分
- ▲社会的な見方・考え方については、その全体像が不明確であり、それを補うための具体策が定着するには至っていない。
- ▲近現代に関する学習の定着状況が低い傾向にある。
- ▲課題を追究したり解決したりする授業が十分に行われていない。

● 現行の学習指導要領が目指してきたもの

(「答申」より)

- ◎ 社会的な事象に関心をもち、多面的・多角的に考察し、公正に判断する能力と社会的な見方や考え方を成長させる。

「課題解決的な学習」の展開と「言語活動」を重視した授業づくり

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 《5つのポイント》

※各ポイントが機能するイメージは左図参照

左ページにあげた社会科，地理歴史科，公民科における課題を解決しつつ，社会科が目指す資質・能力を育成するためには「社会との関わりを意識して課題を追究したり解決したりする活動」を「アクティブ・ラーニング」の視点（「主体的・対話的で深い学び」）で充実させる必要があります。実践にあたっては，「答申」等における考え方を基に，次の《5つのポイント》に留意することが重要と捉えました。

【どのように学ぶか】

【ポイント1】 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた「課題解決的な学習」の充実

◎社会科及び地理歴史科，公民科における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の在り方，また，その実現を目指す「課題解決的な学習」の過程について，「答申」を基にその概略を紹介します。

【どのように学ぶか】

【ポイント2】 「社会的な見方・考え方」を働かせた学びの重視

【ポイント1】にあげた「深い学び」に至る鍵となるのが「社会的な見方・考え方」です。その概要とともに，”「社会的な見方・考え方」を働かせる学び”，”「思考力・判断力の育成」との関係”についての考え方を解説します。

【「主体的・対話的で深い学び」に導く指導上の工夫】

【ポイント3】 「指導言」（説明・指示・発問・助言）等の工夫

【ポイント4】 「学習形態・手法」の工夫

多くの学習内容を取り扱う社会科，地理歴史科，公民科においては効率よく，効果的に授業を進め，生徒たちを「主体的な学び」「対話的な学び」「深い」学びに導くために，他教科にも増して，【ポイント3】【ポイント4】にあげる指導上の工夫が必要と考えます。昨年度研究の成果（中学校社会科及び高等学校地理歴史・公民科における「アクティブ・ラーニング型授業」づくりガイド）から引用・紹介します。

【何が身に付いたか】

【ポイント5】 「主体的・対話的で深い学び」の充実度を評価する

資質・能力の向上を目指し，教員には，授業の質を向上させるための不断の取り組みが求められます。「答申」等に示されたを基に「学習評価」の在り方，単元構想をはじめとした授業づくりにおける「カリキュラム・マネジメント」の考え方について，解説します。

ポイント1 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた「課題解決的な学習」の充実

◆社会科における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」とは

「答申」を基に、次の様に捉え、整理しました。

	《生徒の学び(◎)》《教員による指導(■)》の視点	実現のためのポイント
「主体的な学び」	<p>◎学習課題を把握してその解決への見通しをもつ 【動機付け】 単元を通じた学習過程の中で、学習対象に対する関心や課題意識をもつ 【方向付け】 仮説や学習計画を立てたり調査方法や追究方法を吟味したりする</p> <p>◎学習したことを振り返る <input type="checkbox"/> 学んだことの意味や意義に気付く <input type="checkbox"/> 新たな課題(問い)をもつ <input type="checkbox"/> 学んだことを社会生活に生かそうとする</p> <p>■学習内容・活動に応じた振り返りの場面を設定し、生徒の表現を促す ■単元の学習内容を示した「学びの地図」を提示し、生徒と共有する”単元の学習内容を確認”すると共に、”どのように学ぶのか”見通しを共有する。</p>	<p>「見通し」と「振り返り」を重視した学びとなっているか。</p> <p>生徒たちの学習に対する受け身の姿勢を見通しを持った積極的な姿勢に転換していくことが第一歩</p>
「対話的な学び」	<p>◎他者との理解や考えの交流(ペア・グループ・学級全体)を通して、集団や個人の理解や考えを深める ※「他者」⇒他の生徒・教員・地域の人々・先哲の考え(書籍・資料)等</p> <p>■多様な方法に一步進めてみる 【ICT】の活用 主体的・対話的学びの過程でタブレット端末等を利用して意見交流等 【ホワイトボード】の利用 グループでただ話し合うのではなく、考えを書き表させる等 【思考ツール】の活用 一人一人が考えを書いた上で、それを突き合わさせる等</p> <p>■思考の様子の把握に努める 考えの交流(表現)することは、生徒が他者と対話できるだけでなく、教員にとっても、生徒の思考を可視化させることに繋がっている。</p>	<p>「協働的な学び」の場面は設定されているか。</p> <p><input type="checkbox"/> 問いの質 <input type="checkbox"/> 適切な資料提示 <input type="checkbox"/> 場の設定等の工夫が必要</p> <p>★「学習形態・手法」の工夫については、《ポイント4》P.14に示し</p>
「深い学び」	<p>■「課題解決的な学習」の充実を図る ⇒「社会的な見方・考え方」を用いた考察、構想や説明、議論等の学習活動が組み込まれた学習を設計する</p> <p>◎【生徒の学習活動】 <input type="checkbox"/> 教科・科目及び分野の特質に根ざした追究の視点とそれを生かした学習課題(問い)の設定 <input type="checkbox"/> 諸資料の信頼性を踏まえた、多面的・多角的な考察 <input type="checkbox"/> 社会に見られる課題の解決に向けた ・広い視野からの論拠に基づく構想(選択・判断) ・論理的な説明 ・合意形成や社会参画を視野に入れながらの議論</p> <p>◎【獲得を目指すもの】 <input type="checkbox"/> 主として用語・語句などを含めた【個別の事実等に関する知識】 <input type="checkbox"/> 主として社会的事象の特色や意味、理論などを含めた社会の中で汎用的に使うことのできる【概念等に関わる知識】</p> <p>★「社会的な見方・考え方」を用いた学びの考え方については、《ポイント2》P.P.9-12に示しています。</p>	<p>「深い学び」を実現する課題解決を取り入れた学習プロセスとなっているか。</p> <p>「社会的な見方・考え方」を働かせた学習プロセスの中で「概念等に関わる知識」の獲得につなげる工夫が必要</p>

【「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた留意点】(「答申」より)

- 「学びの過程」としては ⇒ 一体として実現されるものであり、相互に影響し合うもの。
- 「学びの本質」としては ⇒ 授業改善の視点としてはそれぞれ固有の視点であること。
- 1単位時間の授業の中で全てが実現されるものではないこと
 例えば、単元や題材のまとまりの中に次のような視点をもつこと。
 - ・主体的に学習を見通し振り返る場面をどこに設定するか
 - ・グループなどで対話する場面をどこに設定するか
 - ・学びの深まりを作り出すために、生徒が考える場面と教員が教える場面をどのように組み立てるか ★「単元計画のイメージ」については、《ポイント5》P.15, 17を参照下さい。
- 学びに必要な指導の在り方を追究し、必要な学習環境を積極的に設定していくこと。
- 多様な学習活動を組み合わせて授業を組み立てていくこと。

◆「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す「課題解決的な学習」の過程（例）

「答申」では、学びの過程について、次のように述べています。

- 「社会との関わりを意識して課題を追究したり解決したりする活動」の充実を図ること。
- 「学習過程」および（学習活動）の例として
 - 「課題把握」→（動機付けや方向付け）
 - 「課題追究」→（情報収集や考察・構想）
 - 「課題解決」→（まとめや振り返り）等が考えられること。

◎「課題解決的な学習過程・学習活動の例」と「資質・能力を育成する場面のイメージ」

（「答申」別添資料3-6を基に作成）

★1単位時間のみならず単元全体の学習過程としても適用することができます。

主な学習過程・学習活動の例		主な資質・能力の育成と評価の場面			
課題把握	<ul style="list-style-type: none"> ●学習課題を設定する <ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象等を知る。 ・気付きや疑問を出し合う。 ・課題意識を醸成する。 ・学習課題を設定する。 ★「学習課題」の分類例 <ul style="list-style-type: none"> ①「教科書の内容」にそった課題 ②生徒の「社会生活」上の課題 ③国内外の「グローバル」な課題 	知識	技能	思考力 判断力 表現力等	主体的に学習に取り組む態度
	<ul style="list-style-type: none"> ●課題解決の見通しを持つ <ul style="list-style-type: none"> ・予想や仮説を立てる ・調査方法、追究方法を吟味する ・学習計画を立てる 	主に事実等に関わる知識の習得	主に概念等に関わる知識の習得	① 社会的な見方・考え方をういた社会的な事象等についての考察 ② 社会的な見方・考え方をういた社会に見られる課題の解決に向けた構想 ③ 考察したことや構想したことの説明 ④ 考察したことや構想したことを基に議論する	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に調べ分かってもらうとして ・問いや追究の見通しをもって ・他者と協働して ・よりよい社会を目指して ・学んだことを社会生活に生かそうとして ・学んだことの意味に気付いて
<ul style="list-style-type: none"> ●予想や仮説の検証に向けて調べる <ul style="list-style-type: none"> ・学校外での観察・調査等を通して調べる ・様々な種類の資料を活用して調べる ・他の生徒と情報を交換する 	情報を集める				
課題追究	<ul style="list-style-type: none"> ●社会的な事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察する <ul style="list-style-type: none"> ・多面的・多角的に考察する ・話し合う（討論等） ●社会に見られる課題を把握して解決に向けて構想する <ul style="list-style-type: none"> ・複数の立場や意見を踏まえて解決に向けて選択・判断する 	主に事実等に関わる知識の習得	主に概念等に関わる知識の習得	① 社会的な見方・考え方をういた社会的な事象等についての考察 ② 社会的な見方・考え方をういた社会に見られる課題の解決に向けた構想 ③ 考察したことや構想したことの説明 ④ 考察したことや構想したことを基に議論する	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に調べ分かってもらうとして ・問いや追究の見通しをもって ・他者と協働して ・よりよい社会を目指して ・学んだことを社会生活に生かそうとして ・学んだことの意味に気付いて
<ul style="list-style-type: none"> ●考察したことや構想したことをまとめる <ul style="list-style-type: none"> ・学習課題を振り返って結論をまとめる ・結論について他の生徒と話し合う ・学習課題についてレポート等にまとめる ★「課題解決」の分類例 <ul style="list-style-type: none"> ①理想としての解決策の構想 ②実際の解決策を学ぶ ③②を踏まえたより高度な解決策の構想 	事実や概念等に関わる知識の再認識				
課題解決	<ul style="list-style-type: none"> ●学習を振り返って考察する <ul style="list-style-type: none"> ・自分の調べ方や学び方、結果を振り返る ・学習成果を学校外の他者に伝える ・新たな問い（課題）を見出したり追究したりする 				
新たな課題	<ul style="list-style-type: none"> ●学習を振り返って考察する <ul style="list-style-type: none"> ・自分の調べ方や学び方、結果を振り返る ・学習成果を学校外の他者に伝える ・新たな問い（課題）を見出したり追究したりする 				

【学習過程全体について留意すべき点】（「答申」より）

- 上記の学習過程は例示であり、上例に限定されるものではないこと。
- 「主体的・対話的で深い学び」を意図した単元の構成の工夫が望まれること。
- 社会的な事象等については、生徒の考えが深まるよう様々な見解を提示するなど重要。
 - ・客観的かつ公正な資料に基づいて指導し、偏った取り扱いにならないよう留意すること。

ポイント2 「社会的な見方・考え方」を働かせた学びの重視

※ **ポイント1** であげた「深い学び」に至る鍵となるのが「見方・考え方」です。

◆「見方・考え方」は、学びの過程で”働かせるもの”そして”鍛えられていくもの”

◎各教科等の特質に応じた「見方・考え方」（「答申」より）

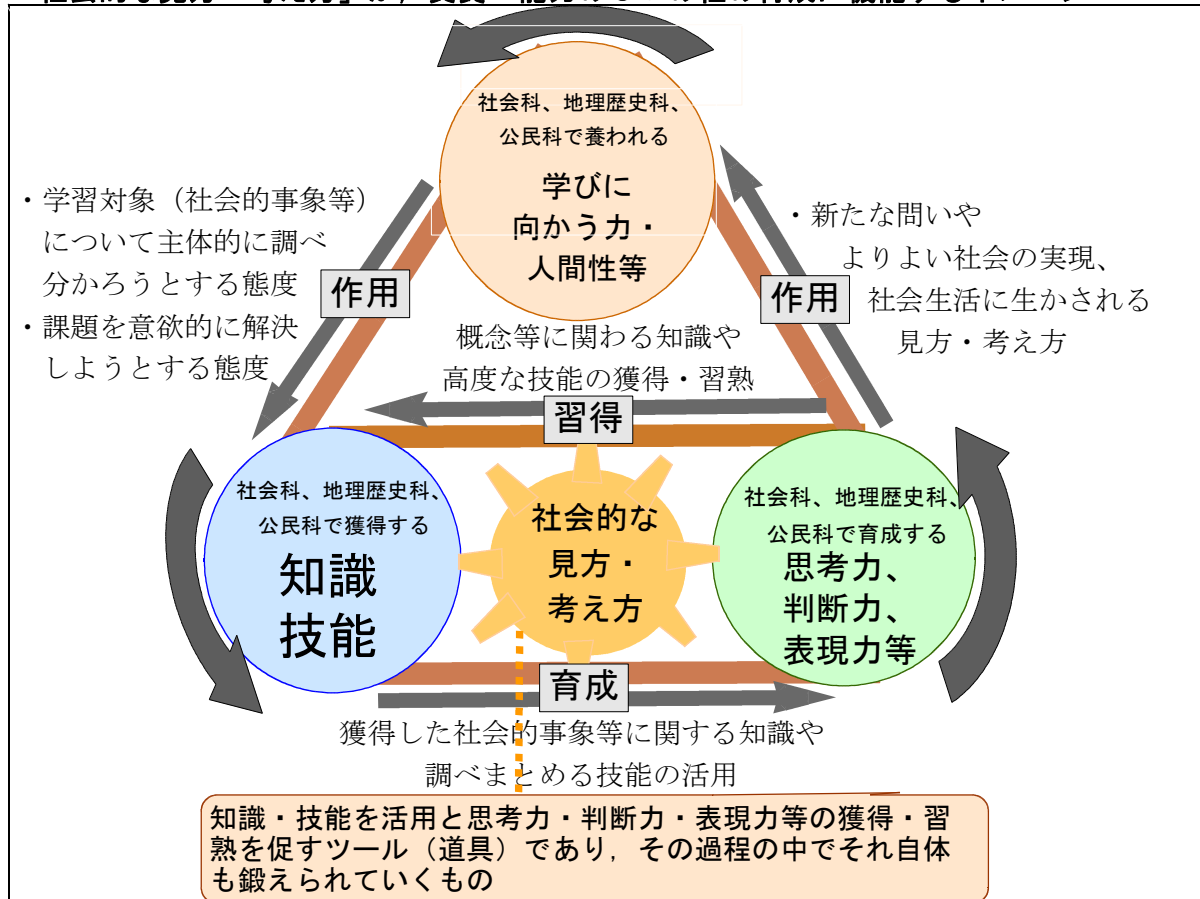
- 学びの過程の中で"どのような視点で物事を捉え、どのように思考していくのか"という「物事を捉える視点や考え方」
- 思考や探究に必要な道具や手段として資質・能力の三つの柱が活用・発揮され、その過程で鍛えられていくもの
- 新しい知識・技能を既にもっている知識・技能を結びつけながら深く理解し、生きて働くものとして習得したり、思考力・判断力・表現力を豊かなものとしたり、社会や世界にどう関わるかの立場や視点を形成したりするために重要なもの
- 習得・活用・探究という学びの過程の中で働くことを通じて、資質・能力がさらに伸ばされたり、新たな資質・能力が育まれたりすることにより、「見方・考え方」が更に豊かなものになるという相互の関係にあるもの

◎「社会的な見方・考え方」とは（「答申」より）

⇒ 校種の段階や分野・科目の特性を踏まえた「見方・考え方」の総称

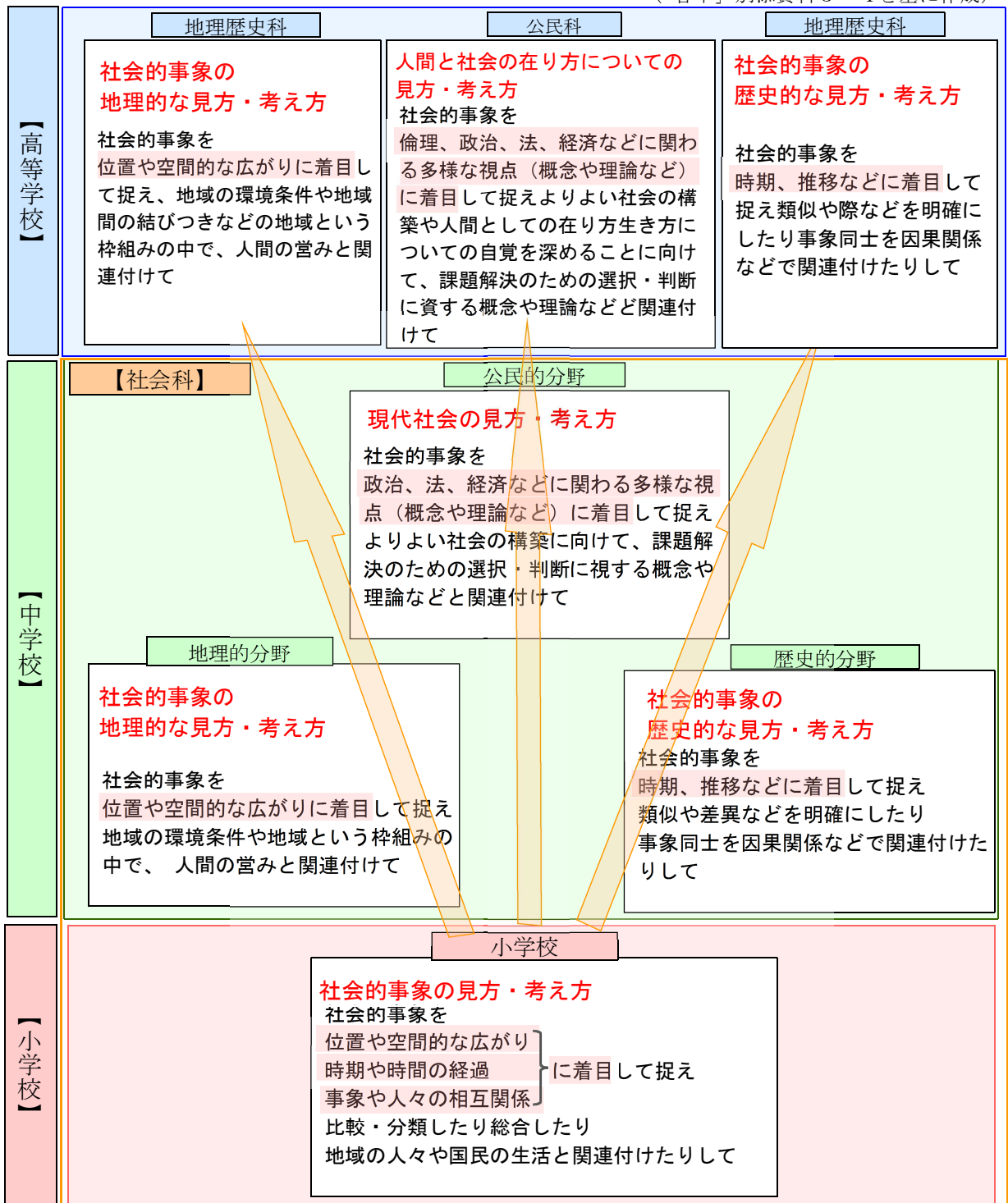
- 課題を追究したり解決したりする活動において、”社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想したりする際の「視点や方法」”
- 本質的な学びを促し、深い学びを実現するための思考力・判断力の育成はもとより、生きて働く知識の習得に不可欠であること、主体的に学習に取り組む態度や学習を通して涵養される自覚や愛情等にも作用することを踏まえると”「資質・能力全体に関わるもの」”
- 社会的事象等を見たり考えたりする際の視点や方法であり、時間、空間、相互関係などの視点に着目して事実等に関する知識を習得し、それらを比較、関連付けなどして考察・構想し、特色や意味、理論などの概念等に関する知識を身に付けるために必要となるもの。

◎「社会的な見方・考え方」が、資質・能力の3つの柱の育成に機能するイメージ



◆各校種・科目・分野ごとの「社会的な見方・考え方」

(「答申」別添資料3-4を基に作成)



◆「答申」には「見方・考え方」に関わり次の様な記述もあります。

- 各教科等の学びの中で育成された見方・考え方は、各教科等の学習の中で働くだけでなく、大人になって生活していくに当たっても重要な働きをするもの。
- 子供たちが学習や人生において「見方・考え方」を自在に働かせられるようにすることにこそ、教員の専門性が発揮されるべきもの。

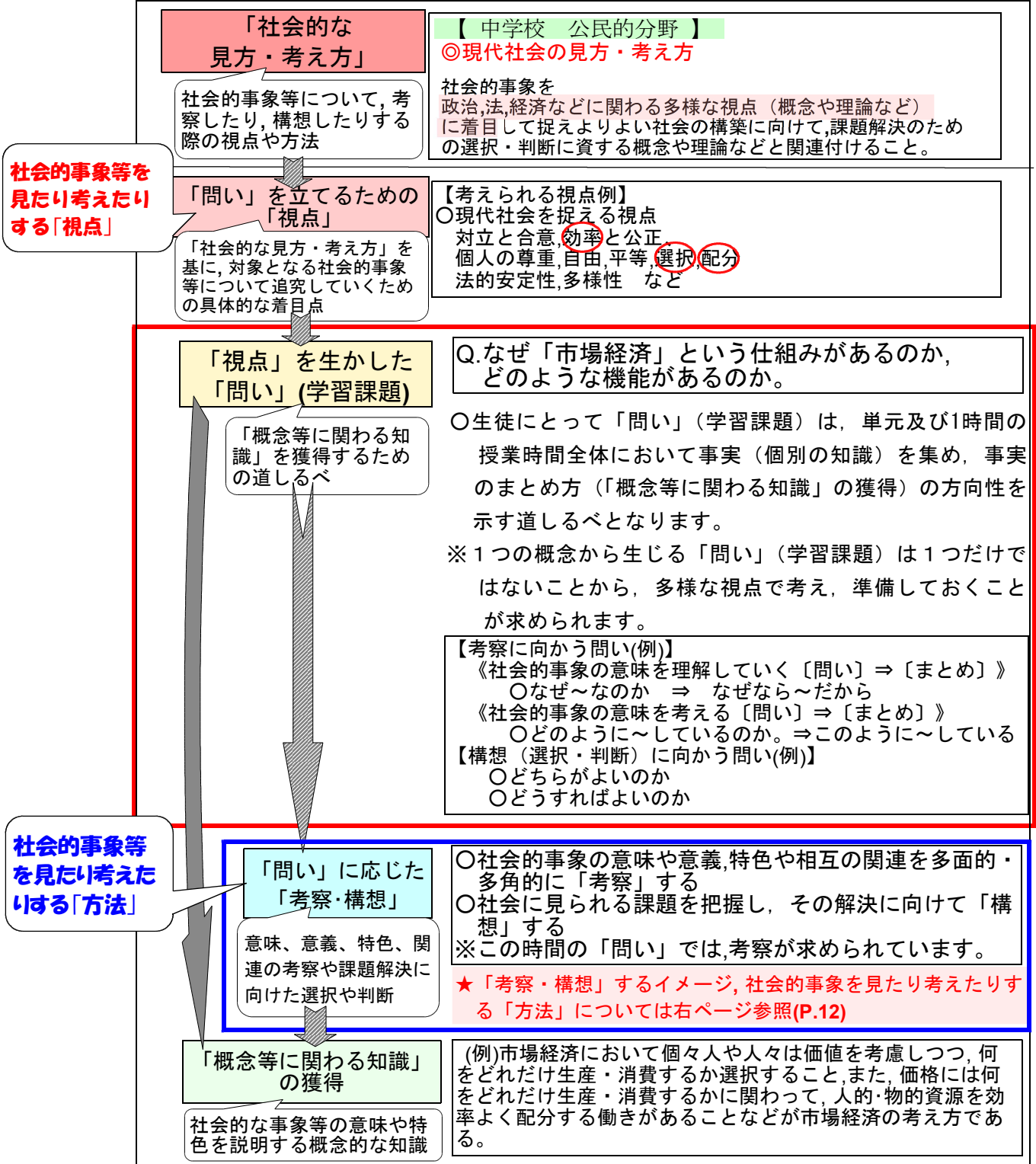
★「社会的な見方・考え方を働かせる学びについての考え方」「社会的な見方・考え方と思考力・判断力・表現力」との関係については、P.P.11-12で紹介します。

◆”「社会的な見方・考え方」を働かせる学び” についての考え方

◎社会的な事象等について追究しようとする「視点」から「問い」が生まれ、「問い」(学習課題)が「考察・構想」に向かわせ、「考察・構想」が「概念等に関わる知識」の形成に繋がります。「社会的な見方・考え方」を働かせるためには、学びの過程における「問い」(学習課題)の質を向上させることが鍵になるものと考えられます。

※「概念等に関わる知識」……意味や特色を説明する知識

〔(例) 中学校 公民的分野において「市場経済」の基本的な考え方について考察する場面〕



★本ページの内容について具体例は、「答申」別添資料3-5をもとに資料4(P.P.25-28)に例示しています。

◆「社会的な見方・考え方」と「思考力・判断力の育成」との関係

(「答申」別添資料3-3)を基に作成)

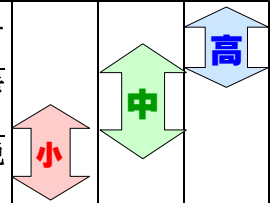
「社会的な見方・考え方」が機能する対象は、「資質・能力」全体とされていますが、以下の
ようなイメージで主に「思考力・判断力」の育成において働くものと考えられます。

【表現】(説明・議論)

理解したこと、考えたことを、様々な方法やスキルを活用して説明・議論する

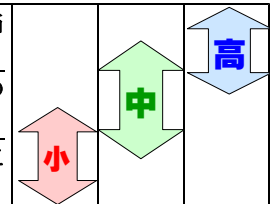
◎考察したこと、構想したことを説明する力

- 適切な資料・内容や表現方法を選び、社会的事象等についての自分の考えを効果的に説明したり論述したりできる
- 主旨が明確になるように内容構成を考え、社会的事象についての自分の考えを論理的に説明できる
- 根拠や理由を明確にして、社会的事象についての自分の考えを論理的に説明できる



◎考察したこと、構想したことを基に議論する力

- 合意形成や社会参画を視野に入れながら、社会的事象等について獲得したことを、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論できる
- 他者の主張を踏まえたり取り入れたりして、社会的事象についての自分の考えを再構成しながら議論できる
- 他者の主張につなげたり、立場や根拠を明確にしたりして、社会的事象についての自分の考えを主張できる



【思考・判断】(考察・構想)

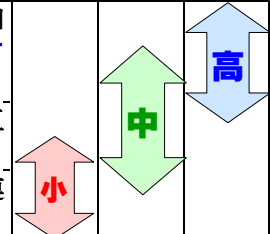
「社会的な見方・考え方」を用いて社会的事象等について考察・構想する

社会的事象等を見たり考えたりする「方法」

- 複数の情報を「比較する」
 - ・これらの共通点は～
 - ・これらの相違点は～
- 複数の情報を「関連づける」
 - ・これらを関連付けると～
- 分かったことを「総合する」
 - ・分かったことをまとめると～
- 自分なりに理解や考えを「再構成」する
 - ・自分は～だと思う。
 - ・なぜなら～だからだ。
- 情報を「分類・整理」する
 - ・この視点で分けると～

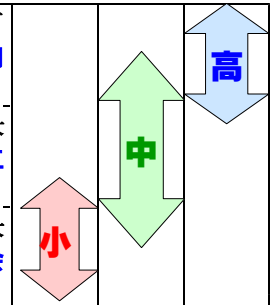
◎「社会的な見方・考え方」を用いて、社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察する力

- 社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連について、概念等を活用して多面的・多角的に考察できる
- 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察できる
- 社会的事象の意味、特色や相互の関連を多角的に考察できる



◎「社会的な見方・考え方」を用いて、社会に見られる課題を把握し、その解決に向けて構想する力

- 社会に見られる複雑な課題を把握して身に付けた判断基準を根拠に解決に向けて構想できる
- 社会にみられる課題を把握して、解決に向けて学習したことを基に複数の立場や意見を踏まえて選択・判断できる
- 社会に見られる課題を把握して、解決に向けて学習したことを基にして社会への関わり方を選択・判断できる



《多面的に考察する》社会的事象等を様々な側面(社会・文化・政治・経済など)から考えること
 《多角的に考察する》社会的事象等を様々な立場(個人・全体など)から考えること

【社会的事象等に関する情報】

課題解決に必要な情報を得る

◎社会的事象等に関する既存の「知識・理解」

◎社会的事象等について資料等から「情報」を得る。



ポイント 3 「指導言」（説明・指示・発問・助言）等の工夫

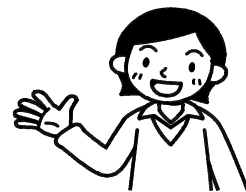
◆「指導言（説明・指示・発問・助言）」を機能させる

◎学習する内容を【共通理解】させる分かりやすい「説明」

- 「言葉を精選」してノイズを省き、簡潔に話す。
- 「具体例」（具体物・実演・図示・描写等）をあげて話す。
 - ★「学習する内容」・「理解の仕方、考え方」・「学習内容のまとめ」等。
 - ⇒「この時間は〇〇について学習します。」
 - 「はじめに〇〇について～で学習し、次に□□について～で学習します。」
 - 「〇〇とは～が～であることです。」

◎【学習活動】を促す的確な「指示」

- 「学習活動の見通し」を伝える。
 - ★「内容」・「方法」・「時間」・「順序」等。
 - ⇒「作業をやめて下さい。」「教科書の〇〇ページを開いて下さい。」
 - 「なぜ〇〇なのですか。『～だから』の一文でノートに書いて下さい。」
 - 「4人グループで話し合ってください。時間は10分です。」



◎【考える視点】を与える意図的な「発問」

- 「何を考えさせたいのか」を整理して、問いかける。
 - ★学習内容を定着させる（既有知識・理解の整理等）
 - ⇒「〇〇とは、どんな地形ですか。」「〇〇はいつの出来事ですか。」「〇〇は誰（どこ）ですか。」
 - ★自由な思考を促す（「学習課題」の発見等）
 - ⇒「〇〇から、どんなことが分かりますか。」「〇〇からどんな課題が読み取れますか。」
 - ★考える方向を指し示す（「学習課題」の提示等）
 - ⇒「なぜ〇〇なのですか。」「どのようにして〇〇しているのですか。」「〇と□のどちらを選びますか。」

◎学習状況に応じて【助け船】を出す適切な「助言」

- 「生徒の反応（言葉や表情）」に応じて、アドバイスする。
 - ★「補足」, 「同意」, 「称賛」, 「修正・訂正」, 「間をとってからヒントを与える」等。

◆互いの考えを安心して表現できる「雰囲気づくり」に努める

- 「明るく温かいトーン」で生徒に接する。
- 生徒のやる気を引き出すために「励まし続ける」。

◆授業に「学習活動の目標」を設定する

- 生徒たちの将来に向け育成すべき資質・能力（「三つの柱」）を踏まえた教科・科目等の目標や内容の見直しが求められており、授業に「学習内容の目標」の他に「学習活動の目標」も設定することが有効と考えます。



- 例>
- ★「説明する」
 - ⇒ 自分の理解や考えを他者に分かりやすく伝える。
 - ★「聞く（質問する）」
 - ⇒ 他者の理解や考えに耳を傾け、理解する（疑問点は質問する）。
 - ★「協働する（協力・貢献する）」
 - ⇒ 自己のもつ力を発揮しながら、他者と協力して取り組むことを通して、考えを深める。



◆「話し合い」を機能させる

◎「ペア（1対1）」や「グループ（4人程度）」による話し合い

必然性があり、方向性が明確な話し合いとするために、次の点について明確に示すことが大切です。

●何について話し合うのか。

●どのように話し合い、まとめればよいのか。

★生徒一人一人に考えをもたせる

⇒ノートや付箋等にかかせせる。メモ形式でも構わない。

★考えを「集約する」

⇒アイデアを出し合う。

★考えを「整理・分類する」

⇒資料から読み取れることについて、共通点を見いだしたり、内容に応じて分けたりする。

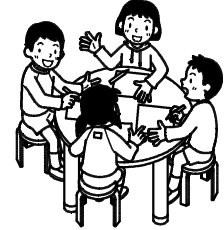
★考えを「深める」

⇒意見を一致させる（合意形成）。

⇒互いの考えについて、質疑応答を通して、より確かなものにする。

※「ホワイトボード」や「付箋」、「思考ツール」を使った話し合いも有効です。

書き直し、やり直しが容易にでき、試行錯誤を必要とする活動に適しています。



◎「全体(学級・科目選択者)」での話し合い

進行役は主に教員がつとめ、「色々な考えや意見があること」、「根拠や前提に違いがあること」に気付かせるとともに、「考え方の異同を整理」してさらに自分や集団の考えを発展させることができるようにすることが大切です。

●生徒の発言に「問い返す」

★根拠や理由が曖昧な時 ⇒ 「なぜ、そのように言えるのですか。」

★言葉の表現が不十分な時 ⇒ 「つまり、どんなことが言えますか。」

●各生徒の理解や考えを「繋ぐ」

★（ある生徒の）発言内容に関わり、全体に問いかける。

⇒「理解（納得）できましたか。」「関連した意見はありませんか。」

★（ある生徒の）発言内容に関わり、異同を整理する。

⇒「補足はありませんか。」「違う意見はありませんか。」

◆学習内容の定着を助ける「教え合い」活動を取り入れる

「事実等を正確に理解し、他者に正確に伝えること」（文部科学省（2010）、『言語活動の充実に関する指導事例集』）を通して、定着をより確かなものにしましょう。

●ペアやグループ活動での活動に、

⇒図や絵などを描きながら、自分の理解を相手に向かって身振り・手振りを加え、声に出して説明する等の活動を組み入れる。

★期待させる効果として



◎【説明する（教える）側】⇒他の生徒に説明できるように学習内容をしっかり理解しようと努めることで、学習内容の定着が促進される。

◎【説明される（教えられる）側】⇒説明に反応できるのは、自分（グループメンバー）しかいないことから、教員からの説明に増して、積極的に理解しようと努める。説明された内容について、質問させてみることも有効である。

★社会科の学習で有効と考える「学習形態・手法」(例)を資料5(P.P.29-30)に例示しています。



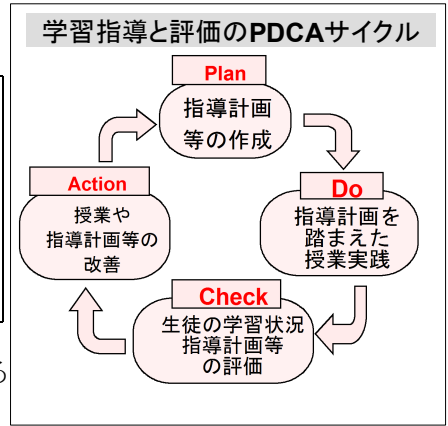
◆ ”指導と評価の一体化”を目指す「学習評価」

「答申」及び「社会・地理歴史・公民ワーキンググループにおける審議の取りまとめ（以下「審議の取りまとめ」という）」（2016）に示された考え方を基に次のように整理しました。

◎「学習評価」（⇒生徒たちの学習状況の評価するもの）の役割

- 生徒の**学ぶ意欲を高めること**。
⇒自己評価等により、生徒が自らの学びを振り返り、自身の良い点や可能性に気付かせます。
- 生徒の**学習成果を把握し、指導の改善を図ること**。
★指導したことを評価し、目標の実現状況を確認する。
★評価したことを指導に生かし、目標の実現を目指す。

※学習指導に関わるPDCAサイクルの中で授業改善を図ることが重要とされています（右図のイメージ）。



（「審議のまとめ」補足資料より）

◎単元や題材のまとまりの中で「三つの観点」で評価する

- 観点別評価**については、育成を目指す資質・能力の「三つの柱」に基づき、右図の**三観点**としています。※社会科への対応は次ページ。
★「目標に準拠した評価」の実質化
★校種を超えた共通理解に基づく組織的な取り組みの促進
- 学習・指導内容と評価の場面を適切に組み立てていくことが重要**。
★毎回の授業で全てを見取るのではなく、単元や題材のまとまりの中で見取る

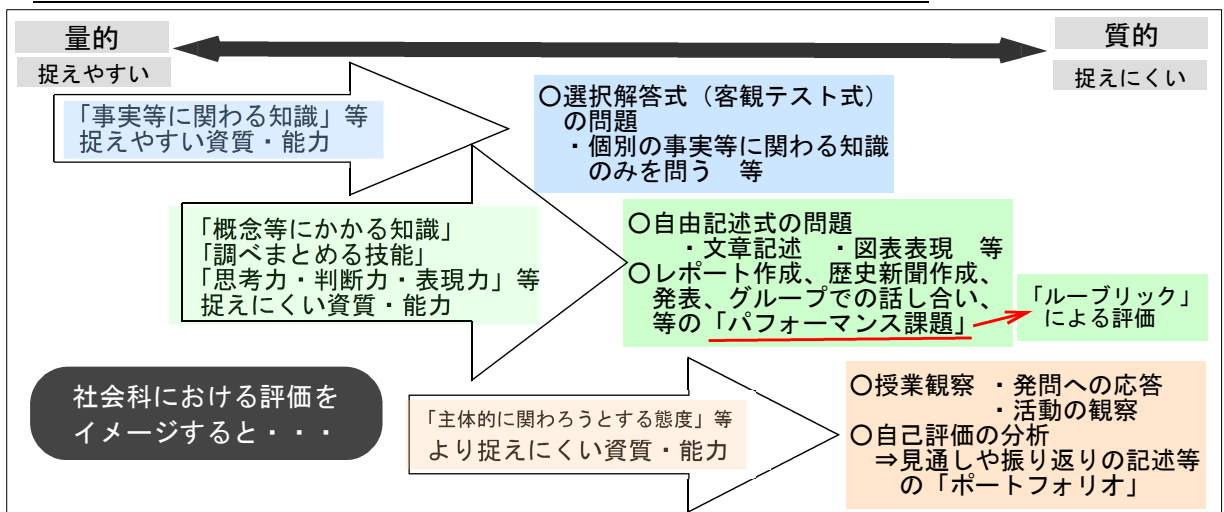
評価の三観点(社会科)

- 社会的な事象等についての知識及び技能
- 社会的な事象等についての思考力・判断力・表現力等
- 社会的な事象等に主体的に関わろうとする態度

※観点別評価には示しきれない、生徒一人一人の良い点や可能性、進歩の状況等については、日々の教育活動で、積極的に生徒に伝えることが必要とされています。

◎多様な評価方法を駆使して多面的・多角的に評価する

「主体的・対話的で深い学び」（「アクティブ・ラーニング」の視点からの学び）は、学習者の多様なパフォーマンスを引き出す学習です。そのため、**知識量等の「量的な面」のみでなく、育成された資質・能力について深まりや広がりという「質的な面」からの評価も求められていきます。**



※単元末や学期末などの「総括的な評価」のみでなく、**学習の過程における自己評価等による「形成的な評価」**により生徒自身が把握できるようにしていくことが大切であるとされています。

★生徒の学びの深まりを把握する、評価方法の例として、社会科における「ポートフォリオ評価」「パフォーマンス評価」「ルーブリック」の考え方について資料6～8(P.P.31-34)に示しています。

◆社会科における「評価の三観点」

「審議の取りまとめ」では、社会科で育成を目指す資質・能力（「三つの柱」）に対応して評価の観点の在り方について、以下のように述べています

<p>社会的 事象等 について の 知識・ 技能</p>	<p>○社会的事象について（～は～であると）理解し、その知識を身に付けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 主として事実等に関わる知識（用語・語句など） 主として概念等に関わる知識（特色・意味・理解など） <p>学習過程に応じて、「～は～である」と理解し、その知識を身に付けているかどうか、といった基準で評価</p> <p>○社会的事象等について調べまとめる技能（社会的事象等に関する情報を収集する、読み取る、まとめる技能）を身に付けている。</p> <p>【収集する技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 調査活動を通して 諸資料を通して 情報手段の特性や情報の正しさに留意して 等 <p>【読み取る技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報全体の傾向性を踏まえて 資料の特性に留意して 複数の情報を見比べたり結び付けたりして 等 <p>【まとめる技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎資料として 分類・整理して 相手意識をもってわかりやすさに留意して 等 <p>身につけているかどうかを学習過程に応じて、例えば、必要な情報を選んでいるか、資料の特性に留意しているか、といった規準で評価</p>
<p>社会的 事象等 について の 思考力・ 判断力・ 表現力等</p>	<p>○〈思考力・判断力〉に関わって</p> <ul style="list-style-type: none"> 「社会的な見方・考え方」を用いて、社会事象等を見出し、社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察している。 「社会的な見方・考え方」を用いて、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想（選択・判断）している <p>学習過程に応じて、多面的・多角的に考察しているかどうか、身に付けた判断基準、複数の立場や意見等を踏まえて構想しているかどうか、適切な資料・内容や表現方法を選び、趣旨が明確になるように内容構成を考え、自分の考えを論理的、効果的に説明しているかどうか、合意形成を視野に入れながら、他者の主張を踏まえたり取り入れたりして自分の考えを再構成しながら議論しているかどうか、といった規準で評価</p> <p>○〈表現力〉に関わって</p> <ul style="list-style-type: none"> 考察したことや構想したことを説明している 考察したことや構想したことを基に議論している
<p>社会的 事象等 に主体的 に関わ らうと する 態度</p>	<p>○学習対象（社会的事象等）について主体的に調べ分かつとして課題を意欲的に追究している</p> <p>問いや追究の見通しを持っているかどうか、粘り強く試行錯誤しながら解決しようとしているか、他者と協働してよりよい結果を得ようとしているかどうか、振り返り、学んだことの意味に気付いているかどうか、といった規準で評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 問いや追究の見通しをもつて 粘り強く（試行錯誤して） 他者と協働して 振り返り、学んだことの意味に気付いて <p>○よりよい社会を考え、学んだことを生かそうとしている</p> <p>学んだことを社会生活に生かそうとしているかどうか、よりよい社会を目指して解決しようとしているかどうか、身に付けた見方や考え方を新たな問いに生かそうとしているかどうか、といった規準で評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 学んだことを社会生活に生かそうとして よりよい社会の実現を視野に 身に付けた「見方・考え方」を新たな問いに生かして <p>《留意点》</p> <p>※学習前の診断的評価のみで判断したり、挙手の回数やノートを取り方などの形式的な活動で評価したりするものではない。</p> <p>⇒生徒が自ら学習の目標を持ち、進め方を見直しながら学習を進め、その過程を評価して新たな学習につなげるといった、学習に関する自己調整を行いながら粘り強く知識・技能を獲得したり思考・判断・表現しようとしていたりしているかどうかという、意思的な側面を捉えて評価することが求められる。</p>

◆単元計画によるカリキュラム・マネジメント

(「答申」に示された考え方を基に)

★「単元」とは・・・(「答申」より)

各教科等において、一定の目標や主題を中心として組織された学習内容のまとまりのことを指します。教科書の章立て等も、こうした単元の構成をイメージしながら構成されています。単元の内容のまとまりの大きさに応じて、大単元・小単元と呼ばれることもあります。

★「カリキュラム・マネジメント」とは・・・

学習指導における「カリキュラム・マネジメント」とは、目の前の生徒たちをどう育てるか、その学校の先生方が考えて実践し、絶えず見直しを図ることであると捉えます。

◎単元のまとまりの中で学習活動を構成する(「単元計画」)

目標や主題を中心とした学習内容のまとまり(「単元」)の中で、社会的事象や事実について”何のために(学習目的)・何を(学習内容)・どのように教え、学習させるか(学習方法)”を構成することが重要と考えます。

◎「学びの地図」を提示し、学びに見通しをもたせ主体的な学習に導く

”単元のどのタイミングで、「どう学ぶ」を通して、「どんな力」を付けていこうとしているのか”を事前に「学びの地図」として生徒に提示・説明し、学習活動の見通しをもたせることが重要。

↓

教員にとっても、”単元の中でどのような学習活動を行い、どのように生徒を育てるか”またそれを「どう評価し、次の学びにつなげるか」という「カリキュラム・マネジメント」につながります。

※「学びの地図」に必要な要素は、《単元計画》における下記の内容と考えます。

《単元計画(全6時間構想)のイメージ》(例)★P.35～の資料9に実践例を示しています。

3 単元で働く「見方・考え方」

4 単元の評価規準

社会的事象等についての知識・技能	社会的事象等についての思考・判断・表現	社会的事象等に主体的に関わろうとする態度
○	○	○
○	○	○

5 単元の指導と評価の計画(全4時間)

時	主な学習活動	評価規準と評価方法
○	○	【評価規準B】(知識・技能)・ 【Aの視点】 【Cの手立て】 【評価方法】

6 アクティブ・ラーニングの視点に関わる実践

「主体的な学び」	★「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の場を単元中のどの場面で・どのように機能させようと構想しているのか明示する
「対話的な学び」	
「深い学び」	

★単元の中で働かせようとする「社会的・見方・考え方」の様相を明示する

★評価の三観点の内容を把握し評価規準を設定する
単元計画を考える際には、前のページにあげた評価の骨組みを理解した上で評価規準を設定しましょう。

★評価のタイミングをバランス良く配置する
1時間の中に多くの評価の観点を配置すると生徒の見取りが難しくなります。単元の中で学習した成果、指導した結果がまとまって現れる場面で、全員から評価材料を収集して公平に評価しようと考えることが大切です。

★評価規準・評価方法を明確に示す
【資料9】の本研究に関わる授業実践においては、
【評価規準B】
「おおむね満足できる」
【Aの視点】
「十分満足できる」
【Cの手立て】
「努力を要する」際の手立てとしました。
「本時の学習課題について追究・解決する姿が評価規準の具体になっているか」「その評価規準を満たせば目標の実現になるか」というように本時の目標を見据えて焦点化を図ることがポイントです。

★目標を明確・適切にもち、学習活動を設定することで、評価も明確・適切にできる
※次のようなイメージで学習活動を配置し、評価することを目指しましょう。
①「まずは情報を集めてみよう」
⇒「情報を収集する技能」が養われるし、評価も可能です。
②「集めた情報を読み取って何が分かったかみんなで確認しよう」
⇒「事実等に関わる知識」が身に付き、評価も可能です。
③「どんな特色があるのかまとめよう」「どんなことができる考えよう」
⇒「考察」「構想」する力が養われ、評価も可能です。

【学習課題】

◆ ”捉えにくい資質・能力”を見取る

P. 16にあげた評価の観点のうち、授業後のゴール像を描きづらいのが「概念等に関わる知識」と「思考力・判断力・表現力等」についてです。学習活動の中に生徒たちがそうした力を発揮する場面をどうつくり出すか。また、その様子をどう評価するのかについて、次の様に考えます。

◎ 「概念等に関わる知識」(⇒意味や特色を説明する知識) についての評価の観点の設定例 《「概念等に関わる知識」の例》

多くの人口を抱えた大消費地東京の周辺では、新鮮な農産物を都市の住民に供給する近郊農業が盛んである。

【評価の観点】

- × 「近郊農業について理解する」
- × 「近郊農業について考えることができる」

どのように理解したり、考えたりすればよいのか視点が定まっておらず、目標が不明確になってしまいます。

- 「近郊農業の発達と大消費地東京とを関連付けて考えることができる」

考える視点が明確で、[ポイント2]であげた「社会的な見方・考え方」を働かせた「深い学び」につながり、「概念等に関わる知識」の獲得に繋がるものと考えます。

◎ 「思考力」を見取る評価方法（例）

例 1

【評価の観点】「社会的な見方・考え方」を用いて、社会的事象等を見出し、社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察している。

※上記は「理解に向かう思考」（思考⇒理解）と考えることができます。



【学習活動（例）】

「なぜ〇〇は△△なのか」という問いにより、対象となる社会的事象等について多面的・多角的に思考・表現させることで思考のプロセスを評価することが可能になるものと考えます。

例 2

【評価の観点】「社会的な見方・考え方」を用いて、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想（選択・判断）している。

※上記は「理解を基にした構想」（理解⇒構想）と考えることができます。



【学習活動（例）】

「〇〇について、これからどうすべきか根拠をあげて自分の考えを書きなさい。」という問いにより「何を根拠にどのように判断したのか」を構想（選択・判断）・表現させることでそのプロセスを評価することが可能になるものと考えます。

III 資料

【資料1】

■学校全体において育成を目指す資質・能力の設定・共有と

各教科等で育成を目指す資質・能力との関連付けの考え方

今後、各学校においては、P. 3 にあげた学校教育を通じて育てたい姿や資質・能力の三つの柱を踏まえつつ、自校の教育目標や育成を目指す資質・能力を明確にし、全ての教職員で取り組んでいくことが求められています。本研究では、学校全体で育成を目指す資質・能力を明確にし、それを日々の授業の中で実現していくにはどうすればよいかという考え方を次の2点にまとめました。

●学校全体として育成を目指す資質・能力の設定と共有

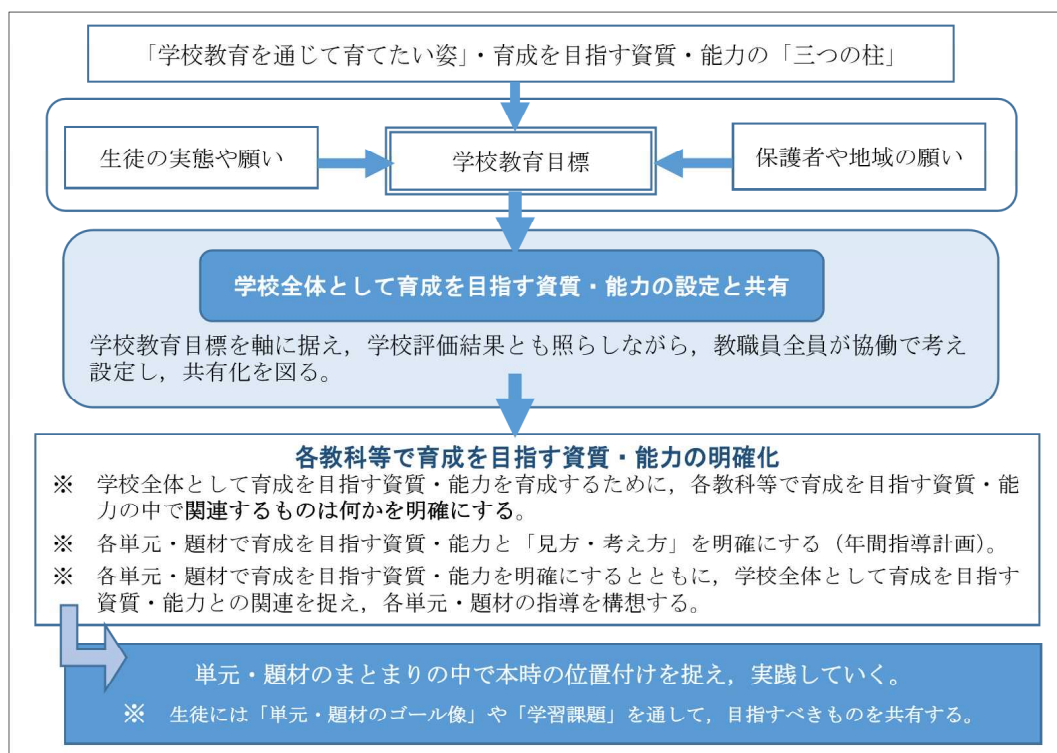
○学校教育を通じて育てたい姿や資質・能力の「三つの柱」を踏まえ、学校教育目標等を軸に、学校評価の結果等と照らし合わせながら、学校全体として育成を目指す資質・能力を設定します。⇒教職員全員で協働して考え、共有化と主体化を図ります。

●各教科等で育成を目指す資質・能力

○学校全体として育成する資質・能力を育成するために、各教科で育成を目指す資質・能力の中で関連するものは何かを明確にし、年間指導計画に位置付けます。

○各単元・題材で育成を目指す資質・能力を明確にするとともに、学校全体として育成を目指す資質・能力との関連を捉え、単元・題材の指導を構想します。

★上記の考え方の図式化



★研究協力校である岩手県立岩泉高等学校における資質・能力の設定例

①岩泉高等学校の教育目標

- (1) 将来の国家及び社会の形成者としての高い学力と教養を身に付け、責任と義務を自覚し、新しい価値を創造して広く社会に貢献できるたくましい人物を育成する。
- (2) 日本の文化と伝統を継承し慈しむ態度及び豊かに生きるための情操を育む。
- (3) 校訓「立志邁進才知共生」を実践する教育を行う。

②岩泉高等学校が目指す学校像

生徒一人ひとりの持つ個性や能力の伸長を図り、高い志を持って21世紀を切り拓く人物を育てる。そのために、教職員が協働して生徒に感動と自己の変化を実感できる教育実践を通し「地域を支え、地域に支えられる」学校づくりを展開する。

- (1) 文武両道に励み礼節と勤労を尊ぶ校風を継承・発展させる。
- (2) 社会の一翼を担う覚悟と自己実現のための努力を惜しまない人間を育成する。
- (3) 国際的な視野に立ち、地域の文化・伝統を愛し、地域社会に貢献できる人間を育成する。
- (4) 地域と小・中学校からの信頼と期待に応え、地域に開かれた学校作りを推進する。
- (5) 教職員の研修を充実させ、指導力のある教職員集団をもって組織的に生徒の育成に当たる。

これらを受けて岩泉高等学校が学校全体として育成すべき資質・能力（仮）

①、②を受けて、岩泉高等学校が学校全体として組織的に育成すべき力を具体化（仮）する。

<学校全体として育成を目指す資質・能力>

これからの社会や地域を発展的に担うために。

- ・新しい価値を共に創造していく力
- ・新しい価値を共に提案していく力
- ・新しい価値を共に実践していく力

●地理歴史科・公民科の授業を通してつけさせたい資質・能力の具体化

上記にアプローチさせることで、地理歴史、公民の授業において岩泉高等学校の生徒につけさせるべき力の最適化を以下のように考える。

「課題を発見し解決する力」

- A 課題を把握し、社会や地域の多面的・多角的に考察する力
- B 課題解決にむけて構想する力
- C 課題解決にむけて提案・実践する力

〔答申〕別添資料3-1を基に作成

小学校
【社会科】

◎社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な**公民としての資質・能力の基礎**を次のとおり育成することを目指す。

①地域や我が国の国土の地理的環境，現代社会の仕組みや働き，地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して，社会生活について理解するとともに，調査や諸資料から情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

②社会的事象の特色や相互の関連，意味について多角的に考える力，社会に見られる課題を把握して，その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力，思考・判断したことを適切に表現する力を養うようにする。

③社会的事象について，よりよい社会を考え課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに，多角的な考察や理解を通して涵養される地域社会に対する誇りと愛情，我が国の国土や歴史に対する愛情，地域社会の一員としての自覚，世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さの自覚等を養うようにする。

●社会的事象から学習問題を見出し，課題解決の見通しをもつて他者と協働的に追究し，追究結果を振り返るなど，**問題解決的な学習の充実**を図る。

◇世界の国々との関わりや我が国の政治の働きへの関心を高める学習，社会に見られる課題を把握して，社会の発展を考える学習の充実を図る。災害における地方公共団体の働き，地域の人々の工夫や努力，地理的・歴史的観点を踏まえた災害に関する理解，防災情報に基づく適切な行動の在り方等に関する指導の充実を図る。

中学校
【社会科】

◎社会的な見方・考え方を働かせ，課題を追究したり解決したりする活動を通して，広い視野に立ち，グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な**公民としての資質・能力の基礎**を次の通り育成することを目指す。

①我が国の国土と歴史，現代の政治，経済，国際関係等に関して理解するとともに，調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

②社会的事象の意味や意義，特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり，社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力，思考・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりする力を養うようにする。

③社会的事象について，よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情，他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚等を深めるようにする。

●主体的に社会の形成に参画しようとしたり，資料から読み取った情報を基にして社会的事象について考察し表現したりするなどの**課題解決的な学習の充実**を図る。

◇地理的分野では，地理的技能の育成を一層重視するとともに，持続可能な社会づくりの観点から様々な課題を考察させ，歴史的分野では，グローバル化に対応する観点から世界の歴史の扱いを充実させ，公民的分野については，社会参画への手掛かりを得させるために身に付けた概念を現実の社会的事象と関連させて理解させる指導の充実を図る。

【高等学校】 地理歴史科	<p>◎ 社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <hr/> <p>① 日本及び世界の歴史の展開と生活・文化の地域的特色に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>② 地理や歴史に関わる諸事象について、概念等を活用して多面的・多角的に考察したり、課題の解決に向けて構想したりする力、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養うようにする。</p> <p>③ 地理や歴史に関わる事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚等を深めるようにする。</p>
【高等学校】 公民科	<p>◎ 社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <hr/> <p>① 選択・判断の手掛かりとなる概念や理論、及び倫理、政治、経済等に関わる諸課題に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>② 現代の諸課題について、事実を基に概念等を活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて構想したりする力、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養うようにする。</p> <p>③ 人間と社会の在り方に関わる課題について、よりよい社会の実現のために主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される人間としての在り方生き方についての自覚、自国を愛しその平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し各国民が協力し合うことの大切さについての自覚等を深めるようにする。</p>

【資料3】

■小学校及び中学校社会科において育成を目指す資質・能力

(「答申」別添資料3-2を基に作成)

	小学校社会科	中学校社会科
知識・技能	<p>○社会生活に関する理解 (地域や我が国の国土の地理的環境, 現代社会の仕組みや働き, 地域や我が国の歴史, それらと人々の生活との関連)</p> <p>○社会的事象について調べまとめる技能 (社会的事象に関する情報を適切に集める・読み取る・まとめる技能)</p>	<p>○我が国の国土と歴史や現代社会の政治, 経済, 国際関係に関する理解</p> <p>○社会的事象について調べまとめる技能 (調査や諸資料から, 社会的事象に関する様々な情報を効果的に収集する・読み取る・まとめる技能)</p>
思考力・判断力・表現力等	<p>○社会的事象の特色や相互の関連, 意味を多角的に考える力, 社会に見られる課題を把握し, 社会への関わり方を選択・判断する力</p> <p>○思考・判断したことを適切に表現する力</p>	<p>○社会的事象の意味や意義, 特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり, 社会に見られる課題を把握し, 解決に向けて複数の立場や意見を踏まえて選択・判断したりする力</p> <p>○思考・判断したことを説明したり, それらを基に議論したりする力</p>
学びに向かう力・人間性等	<p>○社会的事象について主体的に調べ分かうとして課題を意欲的に追究する態度 (環境保全, 自然災害防止, 産業の発展, 情報化の進展, 先人の業績や文化遺産, 我が国の政治の働き, 世界の国々との関わり)</p> <p>○よりよい社会を考え学んだことを社会生活に生かそうとする態度</p> <p>○多角的な考察や理解を通して涵養される自覚や愛情等 (地域社会の一員としての自覚, 地域社会に対する誇りと愛情, 我が国の国土に対する愛情, 我が国の歴史や伝統を大切にし, 国を愛する心情, 世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚)</p>	<p>○社会的事象について主体的に調べ分かうとして課題を意欲的に追究する態度</p> <p>○よりよい社会の実現を視野に社会に関わろうとする態度・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される自覚や愛情等 (我が国の国土や歴史に対する愛情, 他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚)</p>

■高等学校 地理歴史科，公民科において育成を目指す資質・能力

(「答申」別添資料3-2を基に作成)

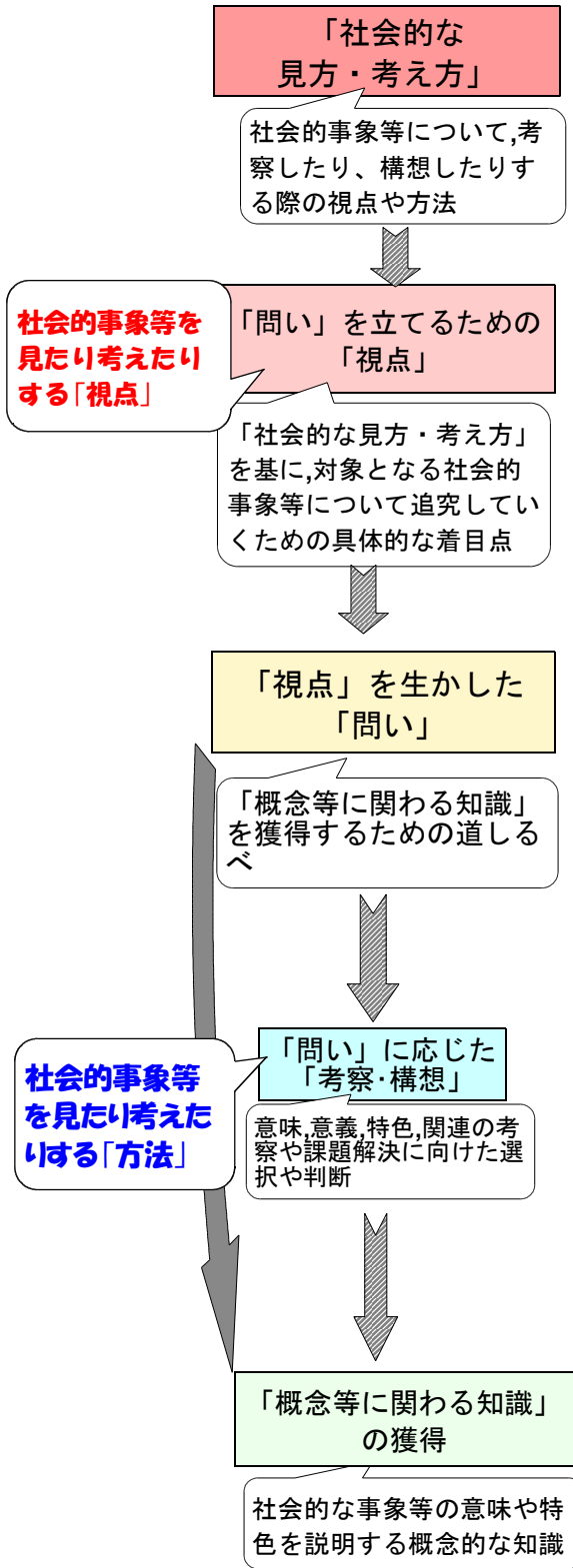
	高等学校 地理歴史科	高等学校 公民科
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ○日本及び世界の歴史の展開と生活・文化の地域的特色に関する理解 ○社会的事象について調べまとめる技能 	<ul style="list-style-type: none"> ○諸課題を捉え考察し，国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の手掛かりとなる概念や理論の理解 ○倫理的主体，政治的主体，経済的主体，法的主体，様々な情報の発信・受信主体，持続可能な社会づくりの主体に関する理解 ○社会的事象等について効果的に調べまとめる技能
思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ○地理や歴史に関わる諸事象の意味や意義，特色や相互の関連について，概念等を活用して多面的・多角的に考察したり，課題を把握し，その解決に向けて構想したりする力 ○考察・構想したことを適切な資料・内容や表現方法を選び効果的に説明したり，それらを基に議論したりする力 	<ul style="list-style-type: none"> ○諸課題について，事実を基に概念等を活用して多面的・多角的に考察したり，公正に判断したりする力 ○合意形成や社会参画を視野に入れながら，社会的事象や課題について構想したことを妥当性や効果，実現可能性などを指標にして根拠を基に議論する力
学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ○地理や歴史に関わる諸事象について主体的に調べ分かつようとして課題を意欲的に追究する態度 ○よりよい社会の実現を視野に社会に見られる諸課題の解決に関わろうとする態度 ○多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚，我が国の国土や歴史に対する愛情，他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚等 	<ul style="list-style-type: none"> ○人間と社会の在り方に関わる事象や課題について主体的に調べ分かつようとして課題を意欲的に追究する態度 ○よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を見出し，その解決に向けて他者と協働して意欲的に考察・構想し，論拠を基に説明・議論することを通して，社会に参画しようとする態度 ○多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される，人間としての在り方生き方についての自覚，自国を愛しその平和と繁栄を図ることや，各国が相互に主権を尊重し各国民が協力し合うことの大切さについての自覚等

※分野・科目ごとの内容に応じた整理は、「答申」別添資料3-2を参照下さい。

【資料4】

■ 「社会的な見方・考え方を動かしたイメージ

(「答申」別添資料3-5を基に作成)



※ 「考察」に関わっての例
 「構想」に関わっての例

【小学校】	
社会的な見方・考え方	<p>社会的現象の見方・考え方</p> <p>社会的現象を 位置や空間的な広がり 時期や時間の経過 事象や人々の相互関係 比較・分類したり総合したり 地域の人々や国民の生活と関連付けたりして</p>
「問い」を立てるための「視点」例	<p>①位置や空間的な広がり 地理的位置, 分布, 地形, 気候, 範囲, 地域, 構成, 自然条件, 社会的条件, 土地利用 など</p> <p>②時期や時間の経過 時代, 起源, 由来, 背景, 変化, 発展, 継承, 維持, 向上, 計画, 持続可能性 など</p> <p>③事象や人々の相互関係 工夫, 努力, 願い, 業績, 働き, つながり, 関わり, 仕組み, 協力, 連携, 対策・事業, 役割, 影響, 多様性と共生 (共に生きる) など</p>
「視点」を生かした「問い」例	<p>①a どのように広がっているのだろう b なぜこの場所に集まっているのだろう。 c 地域ごとの気候はどのような自然条件によって異なるのだろう</p> <p>②a いつどんな理由で始まったのだろう b どのように変わってきたのだろう c なぜ変わらずに続いているのだろう</p> <p>③a どのような工夫や努力があるのだろう b どのようなつながりがあるのだろう c なぜ〇〇と〇〇の協力が必要なのだろう</p> <p>②ア どのように続けていくことがよいのだろう ③ア 共に生きていく上で何が大切なのだろう</p>
(思考・判断) 考察・構想	<p>【考察】社会的な見方・考え方をを用いて, 社会的現象の特色や相互の関連, 意味を多角的に考察する。</p> <p>【構想】社会的な見方・考え方をを用いて, 社会に見られる課題について, 社会への関わり方を 選択・判断する</p>
「概念等に関わる知識」の獲得例	<p>①a いくつかの組み立て工場を中心に部品工場が集まり, 工業が盛んな地域を形成している b 駅の周囲は交通の結節点なので人が多いため商業施設が集まっている c 国土の地理的位置や台風などの自然条件により気候は異なる</p> <p>②a 祭りは地域の豊作や人々のまともへの願いから始まった b 農作業は機械化により生産効率を向上させてきた c 伝統芸能は技や道具が継承されるとともに, 多くの人々に受け入れられて今に至っている</p> <p>③a 地域の安全は, 関係機関の未然防止と緊急対策によって守られている b 食料生産には私たちの食生活を支える役割を果たしている c 政治には国民生活の安定と向上を図る働きがある</p> <p>②ア 伝統と文化は受け継ぐだけでなく時代に合わせて発展させていく必要がある ③ア 世界の人々と共に生きるには, 文化の考え方の違いを認め合い, 課題を解決しながら理解し合っていくことが大切である。</p>

	【中学校】地理的分野	【中学校】歴史的分野
社会的な見方・考え方	<p>社会的事象の地理的な見方・考え方</p> <p>社会的事象を位置や空間的な広がりに着目して捉え地域の環境条件や地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けて</p>	<p>社会的事象の歴史的な見方・考え方</p> <p>社会的事象を時期、推移などに着目して捉え類似や差異などを明確にしたり事象同士を因果関係などで関連付けたりして</p>
「問い」を立てるための「視点」例	<p>①位置や分布に関わる視点 絶対的、相対的、規則性・傾向性、地域差 など</p> <p>②場所に関わる視点 自然的、社会的 など</p> <p>③人間と自然の相互依存関係に関わる視点 環境依存性、伝統的、改変、保全 など</p> <p>④空間的相互依存作用に関わる視点 関係性、相互性 など</p> <p>⑤地域に関わる視点 一般的共通性、地方的特殊性 など</p>	<p>①時系列に関わる視点 時期、年代 など</p> <p>②諸事象の推移に関わる視点 展開、変化、継続 など</p> <p>③諸事象の比較に関わる視点 類似、差異、特色 など</p> <p>④事象相互のつながりに関わる視点 背景、原因、結果、影響 など</p>
「視点」を生かした「問い」例	<p>①a それは、どこに位置するだろう</p> <p>①b それは、どのように分布しているだろう</p> <p>②a そこは、どのような場所だろう</p> <p>③a そこでの生活は、まわりの自然環境からどのような影響を受けているだろう</p> <p>③b そこでの生活は、まわりの自然環境にどのような影響を与えているのだろう</p> <p>④a そこは、それ以外の場所とどのような関係を持っているだろう</p> <p>⑤a その地域は、どのような特徴があるだろう</p> <p>①～⑤ア それは（①どこにある①どのように広げる②どのような場所とする③どのような自然の恩恵を求める③どのように自然に働き掛ける④他の場所とどのような関係を持つ⑤どのような地域となる）できなのだろう</p>	<p>①a いつ（どこで、誰によって）おこったか</p> <p>②a 前の時代とどのように変わったか</p> <p>③a どのような時代だったか</p> <p>④a なぜおこった（何のために行われた）か</p> <p>④b どのような影響を及ぼしたか</p> <p>④ア なぜそのような判断をしたと考えられるか</p> <p>④イ 歴史を振り返り、よりよい未来の創造のために、どのようなことが必要とされるのか</p>
（思考・判断） 考察・構想	<p>【考察】地域の特色や地域相互の関連を多面的・多角的に考察する</p> <p>【構想】地域に見られる課題の解決に向けて、複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する</p>	<p>【考察】時代の転換の様子や各時代の特色を多面的・多角的に考察する</p> <p>【構想】歴史に見られる諸課題について、複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する</p>
「概念等に関わる知識」の獲得例	<p>①a 明石市は大阪市の西にあり、その市立天文科学館は日本標準時子午線上の北緯34度38分、東経135度0分にある</p> <p>①b アマゾン川流域の一年中雨が多く降る地域には、常緑の密林地帯が広がっている</p> <p>②a 広島市の沿岸部は、低平な三角州となっている</p> <p>③a 平野の乏しい日本では、その傾斜地を段々畑や棚田にするなどして利用してきた</p> <p>④a 多くの人口を抱えた大消費地東京の周辺では、新鮮な農産物を生産し、都市の住民に届ける近郊農業が盛んである</p> <p>⑤a 中国地方の山間部では、人口減少や高齢化の進む過疎化に悩む地域が広がっている</p> <p>③ア 地震や豪雨、台風など自然災害を受けることの多い日本では、被害を最小限に食い止めるため、各地の自然環境に応じた、災害に強い町づくりを進めることが大切である。</p>	<p>①a 9世紀の初め、唐に渡った最澄と空海は、帰国後に仏教の新しい宗派を伝えた</p> <p>②a 15世紀後期の動乱を経て室町幕府の統一的支配は弱まり、各地の大名による領国の支配や、民衆による自治的な統合が進んでいった</p> <p>③a 近世は、江戸幕府の安定した全国支配体制が形成され、産業・通商や町人文化が隆盛をみた時代であった</p> <p>④a 自由民権運動は、士族や商工業者、有力農民など幅広い人々が参加し、一部の勢力が多数を占めた政府に対し、国民の参政権確立を求めた運動であった。</p> <p>④b アジアの富への関心やイスラム諸国との接触（対立と文化交流）を背景としたヨーロッパ人の海外進出は、勢力拡大を図る戦国大名との関係のもと、戦国時代の推移に影響を与えた</p> <p>④イ 公害問題への対策は、関心の広まりと意識の変化の積み重ねが政治や経済の仕組みに影響を与えたため進展した。現代に生きる私たちがそれらを引き継ぎ、環境問題について、よりよい未来のために課題を見出して、解決に向けて考える事が求められている。</p>

	【中学校】 公民的分野	【高等学校】 地理歴史科 地理総合 (仮称)
社会的な見方・考え方	<p>現代社会の見方・考え方</p> <p>社会的事象を 政治、法、済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に視する概念や理論などと関連付けて</p>	<p>社会的事象の 地理的な見方・考え方</p> <p>社会的事象を 位置や空間的な広がりに着目し て捉え、地域の環境条件や地域間の結びつきなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けて</p>
「問い」を立てるための「視点」例	<p>①現代社会を捉える視点 対立と合意、効率と公正、 個人の尊重、自由、平等、選択、配分、 法的安定性、多様性 など</p> <p>②社会に見られる課題の解決を構想する視点 対立と合意、効率と公正、 民主主義、自由・権利と責任・義務、 財源の確保と配分、利便性と安全性、 国際協調、持続可能性 など</p>	<p>①位置や分布に関わる視点 時間距離、時差 等質（均質、同質）性、類似 など</p> <p>②場所に関わる視点 共通性、多様性など</p> <p>③人間と自然の相互依存関係に関わる視点 限界性、防災・減災 など</p> <p>④空間的相互依存作用に関わる視点 移動性、圏構造（都市圏・・・）、グローバル化 など</p> <p>⑤地域に関わる視点 規模、格差、変容、持続可能性 など</p>
「視点」を生かした「問い」例	<p>①a なぜ市場経済という仕組みがあるのか、どのような機能があるのか b 民主的な社会生活を営むために、なぜ法に基づく政治が大切なのか</p> <p>②ア よりよい決定の仕方とはどのようなものか イ 社会保障とその財源の確保の問題をどのように解決していったらよいか ウ 世界平和と人類の福祉の増大のためにどのようなことができるか</p>	<p>①a それは、なぜそこに位置するだろう ①b それは、なぜそのように分布しているだろう ②a そこは、なぜそのような場所になったのだろう ③a そこでの生活は、まわりの自然環境からなぜそのような影響を受けているのだろう ③b そこでの生活は、まわりの自然環境になぜそのような影響を与えているのだろう ④a そこは、それ以外の場所となぜそのような関係を持っているだろう ⑤a その地域はなぜそのような特徴があるのだろう</p> <p>①～⑤ア なぜ、それは（①そこにある ①そのように広がる ②そのような場所となる ③そのような自然の恩恵を受ける ③そのように自然に働き掛ける ④他の場所とそのような関係を持つ ⑤そのような地域となる）べきなのだろう</p>
考察・判断	<p>【考察】 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する</p> <p>【構想】 複数の立場や意見を踏まえて構想する</p>	<p>【考察】 地理に関わる諸事象を地域等の枠組みの中で多面的・多角的に考察する</p> <p>【構想】 持続可能な社会の構築のためにそこで生起する課題の解決に向けて、複数の立場や意見を踏まえて構想する</p>
「概念等に関わる知識」の獲得例	<p>①a 市場経済において個人や人々は価格を考慮しつつ、何をどれだけ生産・消費するかを選択すること、また、価格には、何をどれだけ生産・消費するかに関わって、人的・物的資源を効率よく配分する働きがあることなどが、市場経済の基本的な考え方である ①b 民主的な社会における法は、国民生活の安定と福祉の向上を目指し、国民の意思のあらわれとして国民の代表によって構成される議会によって制定されるものであり、国や地方公共団体は、国民の自由と権利を侵さないようにそうした法の拘束を受けながら政治を行っている</p> <p>②ア 合意の妥当性を判断する際に、無駄を省く「効率」と決定の手続きや内容についての「公正」が必要である ②イ 財政に関して、少子高齢社会など現代社会の特色を踏まえ、財源の確保と望ましい配分について対立と合意、効率と公正などの視点から多面的・多角的に考察・判断することが大切である ②ウ 地球規模、資源・エネルギー、貧困などの課題に対しては、経済的、経済的な協力などが大切である</p>	<p>①a 択捉島が日本の国土の最北端であるのは、それが他の北方領土の島々とともに、日本固有の領土だからである ②a 東南アジアの高温多湿な地域では通気性を高めるため、シベリアの凍土地帯では住宅内の熱を逃すため、いずれも高床式住居が建設されている ③b サハラ砂漠の南に広がるサヘル地帯では、過度な放牧や農耕、薪の採取などにより砂漠化が進んだ ④a 飢餓に苦しむ発展途上国への食料援助には、人道的な側面とともに政治的混乱や周辺諸国への難民発生を防ぐといった効果も考えられる ⑤a 発展途上国には、政治や経済、文化、情報などの機能が首都に一極集中し、地域格差が拡大している国がある</p> <p>⑤ア シンガポールでは、地理的に交通の要衝にあることやその多民族性を生かして、国際的な物流の拠点や金融ステーションとしての国づくりを目指している</p>

	【高等学校】地理歴史科 歴史総合 (仮称)	【高等学校】地理歴史科 公共 (仮称)
社会的な見方・考え方	<p>社会的事象の歴史的な見方・考え方</p> <p>社会的事象を 時期,推移などに着目して捉え 類似や際などを明確にしたり 事象同士を因果関係などで 関連付けたりして</p>	<p>人間と社会の在り方についての見方・考え方</p> <p>社会的事象を 倫理,政治,法,経済などに関わる 多様な視点 (概念や理論など)に着目して捉え よりよい社会の構築や人間としての在り方生き方についての自覚を深めることに向けて, 課題解決のための選択・判断に資する概念や理論 などと関連付けて</p>
「問い」を立てるための「視点」例	<p>①時系列に関わる視点 時期,年代 など</p> <p>②諸事象の推移に関わる視点 展開,変化,継続 など</p> <p>③諸事象の比較に関わる視点 類似,差異,特色 など</p> <p>④事象相互のつながりに関わる視点 背景,原因,結果,影響,関係性,相互作用 など</p>	<p>①人間と社会の在り方を捉える視点 幸福,正義,公正,個人の尊厳,自由,平等 寛容,委任,希少性,機会費用, 利便性と安全性,多様性と共通性 など</p> <p>②公共的な空間に見られる課題の解決を構想する視点 幸福,正義,公正,協働関係の共時性と適時性, 比較衡量,相互承認,適正な手続き, 民主主義,自由・権利と責任・義務,平等, 財源の確保と配分,平和,持続可能性</p>
「視点」を生かした「問い」例	<p>②a 何を契機に, (地域や国家, 日本・世界などの) 相互の関係はどのように変化したのか</p> <p>②b どのように転換し,後にどのような変化をもたらしたのか</p> <p>③a どのような(地域や国家,日本・世界などの)共通点もしくは相違点が見られ,それは後の時代に何をもちたのか</p> <p>④a どのような (地域や国家, 日本・世界などの) 相互関係があり,それは後に何をもちたのか</p> <p>④b 歴史に見られる諸課題は,現代社会においてどのような課題と関連して現れているのか</p> <p>④ア なぜそのような判断をしたと考えられるか</p> <p>④イ どのような選択が可能だったのか</p> <p>④ウ 歴史を振り返り,よりよい未来の創造のために何を展望するのか</p>	<p>①a 社会を成立させる背景にあるものは何か</p> <p>①b 社会に参画し,他者と教養する倫理的主体として個人が判断する</p> <p>②ア よりよい集団,社会の在り方とはどのようなものか</p> <p>②イ 公共的な場づくりや安全を目指した地域の活性化のために,私たちはどのように関わり,持続可能な社会づくりの主役となればよいか</p>
考察・判断(思考・構想)	<p>【考察】現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を多面的・多角的に考察する力</p> <p>【構想】歴史に見られる諸課題について,複数の立場や意思を踏まえて選択・判断する力</p>	<p>【考察】人間としての在り方生き方,社会的事象の意味や意義,特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する</p> <p>【構想】複数の立場や意見を踏まえて,社会を形成する主体として構想する力</p>
「概念等に関わる知識」の獲得例	<p>②a 第一次世界大戦を契機に, 国際機構の成立や軍縮条約の成立や軍縮条約の締結に見られる国際協調の機運が高まり, これまでと異なる国際秩序作りが目指された。この頃日本も強調外交の方針のもと, 国際秩序の安定化のために欧米諸国との合意形成に参画した。</p> <p>②b 20世紀前半には, マスメディアの発達などを背景として, 人々の政治や経済・文化活動は拡大した。20世紀後期になると, 新たな技術革新などを背景として, 情報技術が個人にも普及し始め, 今では, それらを活用して人々の社会活動は地球規模に拡大することが可能になっている</p> <p>③a 18～19世紀にかけて工業化や政治変動が起こり, 国民国家のしくみが生まれ, その過程で人権思想が広がり始めた。現代社会においては, 人権思想の深まりがみられ, 新たな人権問題が提起されている。</p> <p>④a 18世紀前後を通じて国際的な商業活動が活性化の中で, アジアの諸帝国が繁栄し, 富を求めて進出した西欧諸国との交流が盛んに行われた。この頃日本も幕府による統制のもと, オランダ, 中国, 琉球などの貿易や, 朝鮮との交流を通じ情報や文化を吸収した。</p> <p>④b 20世紀後半の二度の石油危機以降, 市場経済のグローバル化が一層進んだ。経済活動を中心とする世界の一体化の進行は, 経済成長がもたらすエネルギー資源の問題や様々な格差の問題などを人類共通の課題として提起することになった。</p> <p>④ア 近代化をめぐる日本・アジア諸国の対応は異なり, その後の展開に大きな違いをもたらした。</p>	<p>①a 今まで受け継がれてきた蓄積や先人の取組, 知恵などを踏まえ, 様々な立場や文化等を背景にして社会が形成している</p> <p>①b 「その行為の結果である, 個人や社会全体の幸福を重視する考え方」があり, 両者ともに活用し, 自分も他者ともに納得できる解を見出そうと考えていくことが重要である</p> <p>②ア 「自立した主体とは何か」を問い, 自らを成長させるとともに, 人間は社会的な存在であることを認識し, 対話を通じてお互いを高め合うことの両者によってよりよい公共的な空間を作り出していくことが大切である</p> <p>②イ 選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用するとともに, 個人を起点として自立, 協働の観点から多様性を尊重して持続可能な地域づくりに向けた役割を担う主体となることが大切である</p>

【資料5】

■社会科、地理歴史科、公民科の学習で有効と考える「学習形態・手法」（例）

これまでに協働（協同）学習の手法について、多くの研究がなされてきています。主体的・協働的な学びを実現するため、教科、分野、科目の特性や学習内容、生徒の実態に応じて、教員個々が適切、効果的な手法を、どう取り入れていくかが今後一層必要となってきます。以下に授業実践において取り入れてきた手法の一部を紹介します。今後、さらに有効な手法について研究を進めていく予定です。

●《話し合い・教え合い》 ペア（グループ）交流

一人一人が考えをもち、その内容を表現し合う手法として有効です。

- 【手順1】 （対象の）社会的事象について、一人で考える。
- 【手順2】 ペア（グループ）で考えを交流する。
- 【手順3】 ペア（グループ）で考えをまとめる。あるいは、交流をもとに自分なりに考えを再構成する。
- 【手順4】 クラス全体（グループ）に自分の考えを発表する。

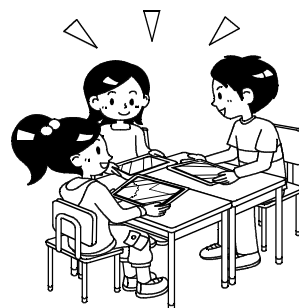
【アレンジのパターン】

- 座ったままで、交互に説明する側、聞く側の立場になって意見を交流する。
 - 説明する側の生徒が立ち上がり、聞く側の生徒を向いて説明する。
 - ①説明内容について図で示したり、身振り手振りを加えるなどして説明する。
 - ②説明された内容について、聞く側の生徒が理解できたら、説明する側の生徒は着席する。
 - ③ペア相手から説明された内容について理解し、聞く側の生徒が全体場で発表する。
- ※説明する側、聞く側の分担はジャンケンで決める。

【ペア構成の工夫】

- 新たな視点を得るためにもペア相手を変えることも有効です。
ペア構成として次のような方法が考えられます。

- 隣同士
- 前後に座っているもの同士
- 好きなもの同士
- 偶数列同士を入れ替えて、ペア相手を変える。
- 偶数列のみ2つ程度座席を移動する。



●《教え合い》 ロールプレイ

学習した社会的事象についての知識・理解やスキルが適用される人物を演じることで、その人物が置かれた場面を感じ取りながら、考えることを通して学びの深まりが期待できます。

●《教え合い》 ジクソー法

課題解決に関わって、クラス内で同時に複数の視点から追究活動を行う際、各視点毎に担当者を割り当てて取り組み、その後、分かった内容について説明し合う学習形態です。

- ・担当した視点について他者に説明できるようになるために、自己の学びが促進されます。
- ・担当外の視点についても、クラスメートからの説明を、先生から受ける説明にも増して、積極的に理解しようと努める姿勢が期待できます。

- 【手順1】 社会的事象について、複数の知識を部品として組み合わせることで解けるようになるよう学習課題を設定します。
- 【手順2】 それぞれの知識ごとにグループ内やクラス全体で担当を決め、担当する知識について学習するとともに、他者に分かりやすく説明する方法を検討します。
- 【手順3】 担当した知識について学習した内容を説明し合い、複数の知識の組み合わせにより、学習課題を解決します。

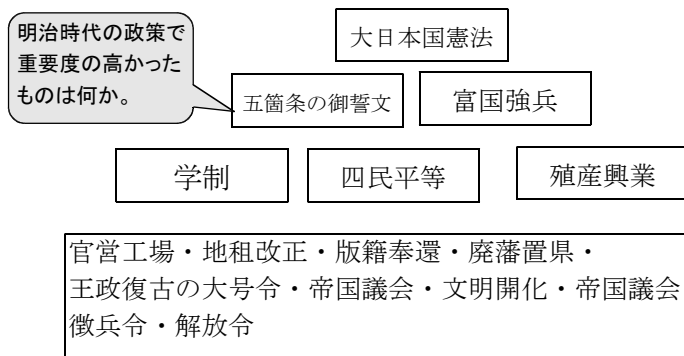
●《話し合い》 ワールド・カフェ

多くのメンバーが一度に密度の濃い意見交流を行うことに有効です。

- 【手順1】 テーマについて自分の考えをもちます。
- 【手順2】 グループ毎（4人1組）で共通の課題について、意見を交流します。
- 【手順3】 ・各グループの代表者1名を残して、他のメンバーは他グループに移動します。
・残った代表者は、【手順2】の活動でどんな意見が出されたのかを他のグループから集まった生徒に説明します。
・説明を受けた生徒は、その内容について質問したり、意見を述べたりすると共に、【手順2】の活動で自分が所属するグループ内で出された意見を説明する。
- 【手順4】 もとのグループに戻り、【手順3】の活動で得た情報を交流し、グループとしての意見をまとめます。
- 【手順5】 各グループの意見を全体場で交流します。

●《話し合い》 ピラミッド・ランキング

学習した情報や知識を序列化して考える方法です。大切なのは序列化した結果ではなく序列化する中で理由や根拠が吟味され、話し合いが深まる点にあります。



- 【手順1】 理由付けをしながら個人で序列化する。
- 【手順2】 個人の序列化をもとにグループ内で意見交流を行いながら序列化する。

【資料6】

■社会科における「ポートフォリオ評価」の考え方（例）

●「ポートフォリオ評価」とは

児童生徒の学習の過程や成果などの記録や作品を計画的にファイル等に集積。
そのファイル等を活用して児童生徒の学習状況を把握するとともに、児童生徒や保護者等
に対し、その成長の過程や到達点、今後の課題等を示す。（「審議のまとめ」補足資料より）

●「ポートフォリオ」とは

ポートフォリオ” portfolio” の原義は、「書類入れ」「紙ばさみ」など、具体的な「モノ」。
⇒「アルバム」「スクラップブック」「記録ノート」等



◆社会科で考えられるのは、

《例》

① 単元や毎時間の学習の振り返り記述（生徒の「自己評価」）

学習課題について、考察したことや構想したことをまとめさせる。
学習過程を振り返って、自分の調べ方や学び方、結果を振り返らせる。

① 学習の過程で派生するノート等へのメモ（「思考途中の記録」）

※生徒自身が学習の過程を振り返ることができるよう、ノート等への記述方法の工夫を図ります。



「自分が独力で考えたこと」、「他者から聞いた考え」
あるいは「他者との対話を通して変化した自分の考え」等を色分けして記述させる。

- ・生徒が自身の思考過程を振り返ることができます。
- ・教員にとっても、生徒の変容を捉え、前向きに評価するための資料となります。

③ 生徒が作成し、デジタル化して保存した学習成果物

●「ポートフォリオ評価」の在り方

⇒作成されたポートフォリオが評価対象

◆評価の基準は多種・多様に考えられます。

《例》

- ① 「ルーブリック」を設定し、それを基準としてポートフォリオの内容を吟味し評価。
- ② ページ数や文字数等分量を基準として評価。

【資料7】

■社会科における「パフォーマンス評価」の考え方（例）

●「パフォーマンス評価」とは

知識やスキルを使いこなす（活用・応用・統合する）ことを求めるような評価方法。
論説文やレポート、展示物といった完成作品（プロダクト）や、スピーチやプレゼンテーション、協同での問題解決、実験の実施といった実演（狭義のパフォーマンス）を評価する。
（「審議のまとめ」補足資料より）

このために、生徒に提示される課題を「パフォーマンス課題」と呼び、単元で学んだ要素を総合して取り組む「まとめの課題」として単元の中に位置付けることが考えられます。

●「パフォーマンス課題」のつくり方

以下、三藤あさみ・西岡加名恵（2010）、『パフォーマンス評価にどう取り組むかー中学校社会科のカリキュラムと授業づくり』、日本標準、P.P.18-23を参考にしています。

○単元の重点目標をもとに「本質的な問い」（ここでは単元の学習課題に相応するもの）する

◆例えば「近現代の世界と日本」の単元では、「繰り返された戦争の背景や社会への影響といった時代の変化をとらえること」が重要と考えられます。

これを「国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を養う」という学習指導要領における目標と合わせ、「なぜ戦争は起こるのか？どうすれば防げるのか？」といった「本質的な問い」が導き出されています。

○「パフォーマンス」のシナリオをつくる

◆設定された「本質的な問い」について、生徒自身が問わざるを得ないようなシナリオにのせて提示するために、次の《6つの要素》を考えるとよいとしています。

- ① 何がパフォーマンス課題の目的か？
- ② その課題のなかで生徒が担う（もしくはシミュレーションする）役割は何か？
- ③ 誰を相手に表現（パフォーマンス）するのか？
- ④ どんな状況を想定するのか？
- ⑤ 生み出すべきパフォーマンス（作品や実演の内容）は何か？
- ⑥ 評価の観点（成功のスタンダードや規準）は何か？

【留意点】

- ・役割や相手、状況はシミュレーションで可。
- ・生徒が楽しく取り組めるような工夫を図る。
⇒生徒の実態を思い浮かべて、どんな役割だったら興味をもって意欲的に取り組めるかを想像する。
- ・作成したパフォーマンス課題にまずは指導者（教員）自身に取り組んでみる。
⇒生徒にとって難しく感じられる点は何か、どのような支援が必要になるか、等を事前にイメージしておく。

◆「パフォーマンス課題」の例

「国際シンポジウムで提案しよう！」

あなたは、平和を守るための調査や研究をしている政治学者です。ところが、20世紀の初めから世界のいろいろなところで戦争が起こるようになりました。第一次世界大戦、第二次世界大戦と規模が大きく犠牲者も多く出た戦争が二度にわたり起こったため、世界に向けて「なぜ戦争が起こるのか？どうすれば戦争を防げるのか？」について提言するレポートを作成することになりました。

その前に、関係したそれぞれの国の研究者とシンポジウムで意見交換することになります。あなたもそのメンバーとして世界平和に役立ち、「なるほどなあ……」と思わせることができるような発言をして下さい。

※三藤あさみ・西岡加名恵（2010）、『パフォーマンス評価にどう取り組むかー中学校社会科のカリキュラムと授業づくり』、日本標準、P23より引用

【資料8】

■社会科における「ルーブリック」の作成と活用について（例）

●「ルーブリック」とは（「審議のまとめ」補足資料より）

成功の度合いを示す数レベル程度の尺度と、それぞれのレベルに対応するパフォーマンスの特徴を示した記述語（評価規準）からなる評価基準表。

項目	IV	III	II	I
項目	…できる …している	…できる …している	…できる …している	…できる …している

記述語 ルーブリックのイメージ例

※学習活動の目標との関係において求められる達成事項の質的な内容を文章で表現したもの。生徒の学習の達成状況レベルを評価するときに用いられる評価規準からなる評価基準表。

●「ルーブリック」による評価

★パフォーマンス課題として知識やスキルを活用して作成されたレポート等については、考えや理解の深まり具合を評価するものであるため「質的」に評価することが何より重要です。

「質」を評価するためには、どのような「質」を価値が高いと考えるかについての基準が必要となります。そのような基準を示すのが「ルーブリック」です。

○「ルーブリック」の設定例〔特定のパフォーマンス課題についてのルーブリック〕

【資料7】で紹介したパフォーマンス課題に対応して、次の「ルーブリック」紹介されています。

◆パフォーマンス課題「国際シンポジウムで提案しよう！」のルーブリック

目指す学習活動の内容を示す”ものさしの種類”	
評価規準	「なぜ戦争が起こるのか」「どうしたら平和を保てるか」について自分の考えをまとめている。
評価基準	目指す学習活動がどれだけ達成できたかを測る”ものさしの目盛り”
5 すばらしい	なぜ戦争が起こるのかについて時代の流れと当時の状況を把握して最適な内容で具体的に語られている。 どうしたら平和を保てるかについて戦争の原因から導き出して関連付けて主張をしている。経済、民族・宗教、条約・同盟、政治など、複数の事ごらを総合的に関連付けて主張している。主張に最適な資料やデータを用いて効果的に活用している。全体的に文章や流れがわかりやすく、事実の解釈の仕方が完全で、主張も強固で説得力がある。
4 良い	なぜ戦争が起こるのかについて時代の流れと当時の状況を把握して具体的に語られている。 どうしたら平和を保てるかについて戦争の原因から導き出して関連付けて主張している。経済、民族・宗教、条約・同盟、政治など、複数の事ごらを総合的に関連付けて主張している。主張に必要な資料やデータを用いて効果的に活用している。事実の解釈の仕方は完全である。
3 合格	なぜ戦争が起こるのかについて時代の流れと当時の状況を把握した具体的な例が書かれている。戦争が起こる原因について経済、民族・宗教、条約・同盟、政治など、いずれかについて史実にもとづきはっきりとした主張をしている。 どうしたら平和を保てるかについて主張している。ただし、主張に必要な具体的な資料やデータが少ないか扱い方がやや浅い。
2 もう一歩	主張はあるが、根拠になる史実のおさえが弱い。または取り上げた史実の解釈に誤りがある。史実を取り上げて説明しているが、主張は感想にとどまっている。
1 かなりの改善が必要	事実が羅列されているだけになっていて主張がない。または未完成である。

三藤あさみ・西岡加名恵（2010），『パフォーマンス評価にどう取り組むかー中学校社会科のカリキュラムと授業づくり』，日本標準，P25を基に作成

※レベル1，3，5の三つのみを利用し，三段階で評価する方法も考えられます。

※「ルーブリック」は，学習の過程において，パフォーマンス評価に取り組ませる前に，生徒たちに示すことで，より効果的に学習に取り組ませることができるものと考えます。

○「ルーブリック」における評価基準の段階化

評価基準を段階化するために次のような《評価の視点》が考えられます。

具体性があるか	考えが具体的に述べられているか。
根拠が確かか	確かな根拠を基にして考えを述べているか。
比較しているか	他の場所や人などとの比較の上で考えが示されているか。
自己の主張があるか	自分の考えが表明されているか。
論理的な表現か	筋道を立ててわかりやすく考えを述べているか。

※教員が確かな学習観をもち、パフォーマンス課題に合わせて、これらを組み合わせたり、これらの中から選択したりして作成することが大切です。

○【長期的に活用できるルーブリック】へ

繰り返し類似のパフォーマンス課題に取り組ませる場合は、前の単元までにつくった〔特定のパフォーマンス課題についてのルーブリック〕の記述語の抽象度をあげるなどして活用することが考えられます。身に付けさせるべき資質・能力について長期的見通しをもつことができ、その内容を生徒と共有することも可能になるものと考えます。

◆パフォーマンス課題（社会的事象等に関するレポート）についての長期的ルーブリック例
（「答申」別添資料3-3を活用したイメージ）

【評価の観点】「社会的事象についての思考力・判断力・表現力等」

評価規準	〈考察する力〉 「社会的な見方・考え方」を用いて、社会的事象等を見出し、社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察している。
	〈構想する力〉 「社会的な見方・考え方」を用いて、社会に見られる課題」を把握して、その解決に向けて構想（選択・判断）している。
評価基準	〈説明する力〉 考察したことや構想したことを説明している。
	〈議論する力〉 考察したことや構想したことを基に議論している。
レベル3 〈良い〉	〈考察する力〉 「社会的な見方・考え方」を用いて、社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連について、概念等を活用して多面的・多角的に考察できる。
	〈構想する力〉 「社会的な見方・考え方」を用いて、社会に見られる複雑な課題を把握して、身に付けた判断基準を根拠に解決に向けて構想できる。
	〈説明する力〉 適切な資料・内容や表現方法を選び、社会的事象等についての自分の考えを効果的に説明したり論述したりできる。
	〈議論する力〉 合意形成や社会参画を視野に入れながら、社会的事象等について獲得したことを、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論できる。
レベル2 〈合格〉	〈考察する力〉 「社会的な見方・考え方」を用いて、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察できる。
	〈構想する力〉 「社会的な見方・考え方」を用いて、社会に見られる課題を把握して、解決に向けて学習したことを基に複数の立場や意見を踏まえて選択・判断できる。
	〈説明する力〉 主旨が明確になるように内容構成を考え、社会的事象についての自分の考えを論理的に説明できる。
	〈議論する力〉 他者の考えを踏まえたり取り入れたりして、社会的事象についての自分の考えを再構成しながら議論できる。
レベル1 〈もう一歩〉	〈考察する力〉 「社会的な見方・考え方」を用いて、社会的事象の意味・特色や相互の関連を多角的に考察できる。
	〈構想する力〉 「社会的な見方・考え方」を用いて、社会に見られる課題を把握して、解決に向けて学習したことを基にして社会への関わり方を選択・判断できる。
	〈説明する力〉 根拠や理由を明確にして、社会的事象についての自分の考えを論理的に説明できる。
	〈議論する力〉 他者の主張につなげたり、立場や根拠を明確にしたりして、社会的事象についての自分の考えを主張できる。

★以上をパフォーマンス課題の内容に応じて、単独であるいは組み合わせ活用することも考えられます。

【資料9】 ■理論構築のための授業実践

●指導計画（学習指導案）の様式について

授業実践の前後で、研究担当者間（中・高の国語・数学・社会・理科・英語）で指導計画（学習指導案）の様式について、検討の機会をもちました。今後、「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善を校内あるいは校種をまたがって授業研究を進めていくにあたり、指導計画の体裁にも、ある程度、共通性が求められていくことになると思います。

その際に、指導者として単元の指導に明確な見通しをもち、その内容を生徒と共有する、先生方に参観の視点を明確に示すために（※前者については、日常の授業も含めて実現を目指すもの、後者については、授業研究会を想定するもの）、

【ポイント1】に関わり、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を実践する場面

【ポイント2】に関わり、「社会的な見方・考え方」を働かせる場面

について、「単元内のどの場面でどのような学習活動を展開を目指すのか」について、指導計画に明確に位置付けておくことが重要であると考えました。

以上については、あとに示す（事例1）及び（事例2）の指導計画中に「3 単元で働く「見方・考え方」「6 アクティブ・ラーニングの視点に関わる実践」として示してありますが、それらは、実践後に追記したものです。その位置づけや記述方法については、今後、再検討を行っていきたいと思います。

なお、「5 単元の指導と評価の計画」に関わっては、

【ポイント5】「主体的・対話的で深い学び」の充実度を評価するのP. 17に考え方を示しましたので、ご参照下さい。

●全面実施に向けて

P. 1で紹介した通り、次期学習指導要領は、今後、改訂⇒周知徹底期間⇒先行実施期間を経て、中学校では平成33年度から、高等学校では平成34年度から（年次進行）の全面実施となります。

今後、これまで以上に単元で授業を構想する力が求められます。今までの実践を基にしながら、日常の授業づくりや授業研究会への取り組みの折に、単元を単位とした実践を蓄積し、準備していくことが大切になると思います。

例えば、「4 時間計画の単元が実際は5 時間かかった」とか、「6 時間計画の単元が5 時間で十分だった」ということからスタートし、その過程で、生徒の実態を見る目や、つけるべき力に対応した指導方法、あるいは学びを通した生徒の変容を見取る力がより高められると思います。

●事例1 (中学校第1学年 地理的分野) 平成28年10月31日(月)・11月1日(火)
 [学級] 花巻市立花巻北中学校 1年2組 [指導者] 研究担当者及び研究協力員

1 単元名 第1編 世界のさまざまな地域
 第3章 世界の諸地域 第4節 北アメリカ州 (東京書籍 新しい社会 地理)

2 単元の目標

【社会的事象等についての知識・技能】

○北アメリカ州について、世界をリードする産業に視点をあて地域的特色を理解し、その知識を身に付けることができるとともに、それらの事象について効果的に調べまとめることができる。

【社会的事象等についての思考・判断・表現】

○北アメリカ州について、世界をリードする産業に視点をあて地域的特色を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現することができる。

【社会的事象等に主体的に関わろうとする態度】

○北アメリカの地域的特色について、世界をリードする産業に視点をあて主体的に調べ分かつようとして、課題を意欲的に追究しようとしている。

3 単元で働く「見方・考え方」

○北アメリカ州の産業について、位置や空間的な広がりに着目して捉え、北アメリカ州の環境条件や地域間の結びつきなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連づける。

【現行学習指導要領との関連】

地理的分野の内容(1)「世界の様々な地域」のウ「世界の諸地域」については、各州の概観をした上で、州内の人々の生活と密接にかかわる地理的事象を取り上げ、それを基に主題を取り上げて学習し、州の地理的特色をとらえさせることをねらいとしている。本単元は、北アメリカ州の地域的特色を世界をリードする産業に視点をあて追究することを通して、単元の目標に迫ろうとするものである。

4 単元の評価規準

社会的事象等についての知識・技能	社会的事象等についての思考・判断・表現	社会的事象等に主体的に関わろうとする態度
○北アメリカ州の主な国々や地形、気候の特色、人口分布の様子について、地形図や主題図から読み取り、その特色について知識を身に付けている。 ○アメリカ合衆国において、ヒスパニックの人口が増え続けている理由について調べまとめている。	○アメリカ合衆国が世界有数の農産物生産国、輸出国に発展できた理由について考察し、説明している。 ○アメリカ合衆国の工業がどのように発展し、どのように変化してきたのか、その背景について考察し、説明している。 ○アメリカ合衆国において農業や工業が盛んな理由とその背景について考察し、説明している。	○北アメリカ(特にアメリカ合衆国)で農業や工業が盛んなことに関心を高め、その背景について追究し、捉えようとしている。

5 単元の指導と評価の計画(全4時間)

時	主な学習活動	評価規準と評価方法
1 前半	○北アメリカ州を写真で概観する。 ○北アメリカ州の歴史的背景について確認する。 ■学習課題の設定(本時) 「北アメリカ州の地形や気候、人口分布にはどのような特色があるのか。」 ○地形図や主題図から読み取った内容について調べて学習シートにまとめる。	【評価規準B】(知識・技能) 北アメリカ州の地形、気候の特色、人口分布の様子について、地形図や主題図から読み取り、その特色について知識を身に付けている。 【Aの視点】 地形、気候、人口分布の特色を関連づけて読み取りまとめている。 【Cの手立て】 資料読み取りの視点を確認する。 【評価方法】 学習シート

<p>1 後半</p>	<p>○主な農産物、工業製品の生産国について学習課題を設定（単元） 「なぜアメリカ合衆国では、農業・工業とも世界有数の生産が可能なのか」 ○単元の学習課題解決に向けて見通しをもつ。</p>	<p>【評価規準B】（主体的に関わろうとする態度） 北アメリカ（特にアメリカ合衆国）で農業や工業が盛んなことに関心高め、その背景について追究し、捉えようとしている。 【Aの視点】 単元の学習課題について、農業、工業それぞれ2つ以上の視点から課題追究の見通しをもっている。 【Cの手立て】 日常の身近な事例と関連づける 【評価方法】 学習シート</p>
<p>2</p>	<p>○アメリカ合衆国が世界有数の農産物生産国、輸出国であることを統計資料から読み取る。 ■学習課題の設定（本時） 「アメリカ合衆国は、なぜ世界有数の農産物の生産国であり、輸出の発展できたのか」 ○学習課題解決の見通しをもつ。 ○栽培の特徴（適地適作）、経営の特色（企業的な農業）の2つの視点について調べアで追究活動を行う。 ○学習課題について振り返る。</p>	<p>【評価規準B】（思考・判断・表現） アメリカ合衆国が世界有数の農産物生産国、輸出国に発展できた理由について考察し、説明している。 【Aの視点】 適地適作と企業的な農業の利点に関連させて考察し、説明している。 【Cの手立て】 日本と比較する視点をもたせる。 【評価方法】 学習シート ・振り返りの記述内容</p>
<p>3</p>	<p>○アメリカ合衆国が世界有数の工業であることを統計資料から読み取る。 ■学習課題を設定（本時） 「アメリカ合衆国の工業が、なぜ世界をリードし続けることができるのか」 ○学習課題解決の見通しをもつ。 ○アメリカ全体の工業生産に占める各地域の割合の変化（1960年と2009年の比較）から工業生産の中心地が変化していることを読み取る。 ○20世紀後半（1970年代）の停滞期前後の20世紀前半～20世紀中頃（1960年）と20世紀後半以降（2009年）の工業の中心地、発展の様子や背景について考察し、説明する。 ○学習課題について振り返る。</p>	<p>【評価規準B】（思考・判断・表現） アメリカ合衆国の工業がどのように発展し、どのように変化してきたのか、説明している。 【Aの視点】 工業の特色の変化とその背景について関連づけて考察し、説明している。 【Cの手立て】 日常の身近な事例と関連づける 【評価方法】 学習シート</p>
<p>4</p>	<p>○アメリカで生まれの生活スタイルや文化が世界に広まっていることを日常の生活実感と結びつけて理解する ■学習課題の設定（本時） 「世界に大きな影響力を及ぼすアメリカ合衆国の産業や生活スタイルや文化は、どのような人々によって支えられているのか」 ○アメリカにおいてヒスパニックの人口が増え続けている背景について、まとめる。 ■単元の学習課題「なぜアメリカ合衆国では、農業・工業とも世界有数の生産が可能なのか。」について振り返る。</p>	<p>【評価規準B】（知識・技能） アメリカ合衆国において、ヒスパニックの人口が増え続けている理由について調べまとめている。 【Aの視点】 ヒスパニックの人口が増え続けている理由について、アメリカの立場、ヒスパニックの人々の立場の両面からまとめている。 【Cの手立て】 アメリカ合衆国と出身国の経済格差について説明する。 【評価方法】 学習シート 【評価規準B】（思考・判断・表現） アメリカ合衆国において、農業、工業ともに世界有数の生産が可能な理由について考察し、説明している。 【Aの視点】 農業、工業ともに世界有数の生産が可能な理由とその背景について関連させて考察し、説明している。 【Cの手立て】 学習シートの振り返り欄を再確認させる。 【評価方法】 学習シート ・単元の振り返りの記述内容</p>

6 アクティブ・ラーニングの視点に関わる実践

「主体的な学び」	【第1時】単元の学習課題を設定し、解決の見通しをもつ場面 【第4時】単元の学習課題について、振り返る場面
「対話的な学び」	【第1～4時】ペア相手などと理解や考えを伝え合い、深め合う場面
「深い学び」	【第1～4時】ペア相手などと理解や考えを伝え合う場面学習課題の解決に関わって、自力で調べた内容を基に、自分なりに理解や考えをまとめたり、説明したりする場面

7 本時の実践

(第1時)

【展開前半】

学習過程	学習活動 予想される生徒の反応	指導上の留意点 評価規準
課題把握 10分	1 課題意識をもつ。 ・北アメリカ州に属する主な国々の名称と位置を調べる。 ・北アメリカ州の人々と文化について既有知識をもとに概要を確認する。 ・北アメリカ州を写真で概観し、多様性が見られる要因を考える。 地形、気候(気温、降水量)、人口分布等の違いが要因	・カナダ、アメリカ合衆国、メキシコの国名と位置をとらえさせる。 ・15世紀以降にヨーロッパからの移民が開拓した地であることを確認する。 ・「アラスカの氷河」、「カナディアン・ロッキー」、「広大な麦田」、「グランドキャニオン」、「メカロポリス」、「マイアミビーチ」の写真資料を提示し解説する。
課題追究 22分	2 学習課題を設定する。 北アメリカ州の地形や気候、人口分布にはどのような特色があるのか 3 「北アメリカ州の主な地形の位置や名称、特徴」について調べまとめる。 (1) 個人で調べまとめる。 (2) ペアで交互に説明し合う。 4 「北アメリカの年降水量・年平均気温」と「北アメリカの人口」の2つの主題図を列ごとに分担して読み取る。 (1) 個人で読み取り、学習シートにまとめる。 (2) 同じ主題図の読み取りを担当した前後のペアで読み取り内容を確認しながら、説明し合う。 (3) 別々の主題図の読み取った隣同士ペアで読み取り内容を説明し合う。	・「ロッキー山脈」、「アパラチア山脈」、「グレートプレーンズ」、「プレーリー」、「中央平原」、「西インド諸島」を取り上げる。 ・効果的な説明の仕方を演示する。 ・2つの主題図それぞれについて、全体で凡例を確認し、読み取りの視点を持たせる。 ・読み取りを担当しなかった資料についてもペアの説明をもとに理解する。
課題解決 5分	5 4, 5の活動で読み取った三つの資料を関連づけて読み取れることを学習シートにまとめる。	・西経100度線を境に東部と西部の様子を比較して読み取らせる。 【評価規準】(知識・技能) 北アメリカ州の地形、気候の特色、人口分布の様子について、地形図や主題図から読み取り、その特色について知識を身に付けている。 (学習シートの記述)
(まとめ) ●西部の地域は全体的に標高が高い。また、降水量は少なく、人口密度は低い傾向にある。 ●東部の地域は全体的に標高が低い。また、『降水量は多く、人口密度は高い傾向にある。 ●気温は南の地域ほど、高い。		

【展開後半】

学習過程	学習活動 予想される生徒の反応	指導上の留意点 評価規準
課題把握 13分	1 課題意識をもつ。 ・主な農産物、工業製品の生産割合上位国から北アメリカ州に属する国々を読み取る。 多くの農産物、工業製品でアメリカ合衆国の生産割合が特に多い。	・グラフ中の北アメリカ州の国々に着色させ、読み取れることを交流させる。
	2 学習課題を設定する。 アメリカ合衆国では、農業・工業ともに世界有数の生産が可能なのか。	
	3 単元の学習課題について解決の見通しをもつ。 農業・大規模、機械化 等 工業・技術力、豊富な資源 等 共通・豊富な労働力、広大な土地等	・農業、工業それぞれと共通して考えられる要素について見通しを持たせる。 【評価規準】(主体的に関わろうとする態度) 北アメリカ州(特にアメリカ合衆国)で、農業や工業が盛んなことに関心を高め、その背景について追究し、捉えようとしている。 (学習シートの記述)
	4 次時以降の見通しをもつ。	

(第2時)

学習過程	学習活動 予想される生徒の反応	指導上の留意点 評価規準
復習 2分	1 前時の学習を想起し、単元の学習課題を確認する。	・前時の学習内容について問う。
	2 課題意識をもつ。 ・主な農産物の統計資料からアメリカ合衆国が世界有数の農産物の生産国であり、輸出国であることを読み取る。	
課題把握 14分	3 学習課題を設定する。 アメリカ合衆国は、なぜ世界有数の農産物の生産国であり、輸出国に成長できたのか。	・「小麦」、「とうもろこし」、「大豆」、「牛肉」生産量(前時に提示済)と輸出量上位国の統計資料を提示する。 ・「小麦」については、生産量の約3割を輸出していることを確認し、輸出を目的とした生産活動を行っていることを実感させる。
	4 学習課題に対して予想し、解決の見通しをもつ。 気候が農作物栽培に適している、農地が広い、労働力が多い 等	
課題追究 24分	5 アメリカ合衆国の農業について「栽培面の特徴」、「経営面の特徴」の2つの視点で追究する。 (1)「適地適作」、「企業的な農業」の具体的な様子について学習シートに調べまとめる。 ①(2)のペア分担で調べまとめる。 ②隣同士のペアで調べた内容を説明し合う。 (2)「適地適作」、「企業的な農業」には、どのような利点があるのかを考察し、学習シートにまとめる。 ① ペアで分担し、調べまとめる。 ②隣同士のペアで調べた内容を説明し合う。 ③全体で確認する。	・学習シート作業後、全体に問いかけ、各自に声に出して答えさせる。 ・担当しなかった内容についてもペアの説明をもとに理解する。
課題解決 12分	6 学習課題を解決し、学習を振り返る。「適地適作」、「企業的な農業」の2つの語句を使って、アメリカ合衆国の農業の特徴について説明文をつくる。 7 次時の見通しをもつ。 (まとめ)アメリカ合衆国の農業の特徴は、(「適地適作」により、自然環境に最も適した栽培することで質がよいものをより多く生産できること。また、「企業的な農業」により、大規模農場で大型機械を用いることで値段の安い農作物を大量生産できることがあげられる。)そのため、世界有数の農産物の生産国、輸出国に発展することができた。	【評価規準】(思考・判断・表現) アメリカ合衆国が世界有数の農産物の生産国、輸出国に発展できた理由について考察し、説明している。 (学習シートの記述)

(第3時)

学習過程	学習活動 予想される生徒の反応	指導上の留意点 評価規準
復習 2分	1 前時の学習を想起し、単元の学習課題を確認する。	・前時までの学習内容について問う。
課題把握 10分	2 課題意識をもつ。 ・世界の大手企業（売上高）500社の約4分の1がアメリカに集中していることを知る。 ・鉱工業分野にしぼるとアメリカ合衆国は現在総生産額が世界で第2位であることを知る。 3 学習課題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">アメリカ合衆国の工業は、なぜ世界をリードし続けることが出来ているのか。</div>	・最近になり中国に抜かれたものの、この100年余りの間、世界一であり続けてきたことを説明する。
	4 学習課題に対して予想し、解決の見通しをもつ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">技術力が高い、労働力が豊富、資源が豊富、等</div>	・単元の学習課題設定時に考えも想起しながら、改めて解決の見通しを持たせる。その際、農作物の生産との性格の違いを意識させる。
課題追究 26分	5 学習課題について追究する。 (1) アメリカ全体の工業生産に占める各地域の割合の変化から中心地域が変化していることを読み取る。 (2) 20世紀後半（1970年代）の停滞期前後の20世紀前半～20世紀中頃（1960年）と20世紀後半以降（2009年）の工業の中心地、発展の様子や背景について考察し、学習シートにまとめる。 ①ペアで分担し調べまとめる。 ②同じ担当をしたペア（座席が前後）で調べた内容を確認しながら、説明し合う。 ③隣同士のペアで調べた内容を説明し合う。 (3) アメリカ合衆国の主な貿易相手国（輸出入）を統計資料から読み取る	・1960年と2009年の割合を比較させ、中西部と北東部で割合が減り、太平洋岸及び山岳地帯、南部で割合が増えていることを気付かせる。特に、南部での増加割合が高いことを確認。 ・発展の背景については、それぞれ2つ以上読み取り学習シートにまとめる。 ＜20世紀前半～20世紀中頃（1960年）＞ ・原料となる鉱産資源が豊富。 ・ヨーロッパからの移民が労働力として貢献。 ＜20世紀後半以降～（2009年）＞ ・科学技術の研究と開発が盛ん。 ・アメリカの大学等で学んだ多くのアジア系の学生がIT関連企業に就職。 ・メキシコ、カナダにとっては、輸出入ともに多くの割合をアメリカ合衆国が占めていること、アメリカ合衆国にとってもメキシコ、カナダが輸出入相手の最上位国であることを読み取らせる。 ・隣国同士である3国がNAFTAが結んでいることが背景にあることを確認。
課題解決 12分	6 学習課題を解決し、学習を振り返る。 「20世紀前半～中ごろまでは」、「20世紀後半以降は」の語句を使って二つの時期におけるアメリカ合衆国の工業の特色について説明文をつくる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">(まとめ) アメリカ合衆国の工業は（「20世紀前半～中ごろまでは」鉱産資源が豊富な大西洋岸や五大湖周辺部での鉄鋼業や自動車製造などの重工業が中心であった。「20世紀後半以降は」進んだコンピューターなどの進んだ技術を生かしたIT産業をはじめとした先端技術産業が盛んになり）世界の工業をリードし続けている。</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">【評価規準】（思考・判断・表現） アメリカ合衆国の工業がどのように発展し、どのように変化してきたのか、説明している。 （学習シートの記述）</div>
	7 次時の見通しをもつ。	

●事例2（高等学校第1学年公民科 現代社会） 平成28年11月18日（金）
 【学級】岩手県立岩泉高等学校 第1学年【指導者】研究担当者及び研究協力校教員

※巻末の【資料1】の考え方（岩泉高校において生徒に育成したい資質・能力を受けて、地理歴史科・公民科の授業を通じて生徒に育成したい資質能力）を基に次のように授業を構想・実践した

1 単元名

第2部 現代の社会と人間 第1章 青年期の自己形成の課題
 2 よりよく生きることを求めて

2 単元の目標

- (1) よりよく生きることを追究した先哲の基本的な考えを理解し、適切にまとめることができる。
- (2) よりよく生きることを追究した先哲の基本的な考えを理解し、適切に表現することができる。
- (3) よりよく生きることを追究した先哲の基本的な考えを理解し、青年期に生きる自己形成の課題を意欲的に追究しようとしている。

3 単元について

(1) 教材について

使用教科書で、中項目「青年期の自己形成の課題」は、「1 現代社会と青年の生き方」、2「よりよく生きることを求めて」から構成され、2の小項目を「内容のまとめり」として単元と捉える。この単元は、哲学、宗教、科学、思想、伝統等から構成される。

内容量が豊富かつ多岐に渡るため、羅列的・網羅的になりがちな分野であるが、上記単元の目標に即し、「先哲の基本的な考えを理解」することを主眼とし、さらにそれを自己形成の糧にできるよう授業をデザインする。なお、その際に前の小項目である「1 現代社会と青年の生き方」と有機的に往還させながら進めることで、学びを社会や人生に生かそうとする態度を涵養する。

(2) 生徒について

1学年はA・B組の2クラス編成となっている。本時の授業クラスは均等に分けられていることもあり、クラス内での学力差が大きい。特にも中～下位層は知識が不足していたり、考察したりすることが苦手な生徒が存在する。元気な生徒が数名おり、反応は良い。

(3) 指導にあたって

地理歴史、公民の授業において岩泉高等学校の生徒につけさせるべき力として、下記のとおり設定した。

「課題を発見し解決する力」

- A 課題を把握し、社会や地域の多面的・多角的に考察する力
- B 課題解決にむけて構想する力
- C 課題解決にむけて提案・実践する力

4 単元で働く「見方・考え方」

○社会的事象等を、倫理、哲学、宗教等に関わる多様な視点に着目して捉え、人間としての在り方生き方についての自覚を深めることに向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などに関連付ける。（高等学校公民 倫理（仮称））

5 単元の評価規準

社会的事象等についての知識・技能	社会的事象等についての思考・判断・表現	社会的事象等に主体的に関わろうとする態度
<ul style="list-style-type: none"> ・先哲の思想について、その概念を理解し、基本的な知識を身につけている。 ・先哲の思想について資料を読み取り、まとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・先哲の思想について多様な視点に着目して捉え、その意味や意義、関連などを考察し、説明している。 ・先哲の思想について多様な視点に着目して捉え、その意味や意義、関連などを考察し、議論している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・先哲の思想を自己形成の課題に生かそうとしている。 ・自己を客観視し「よりよく生きるために自分はどうかあれば良いのか」を意欲的に追究している。

6 単元の指導と評価の計画（全8時間）

単元名 よりよく生きることを求めて 基軸課題 「よりよく生きるために、自分はどうあれば良いのか」		
時	主な学習活動	評価規準と評価方法
1	<p>哲学と人間 課題：「ただ生きるのと「よく生きる」はどのように違うのか」 ・ジグソー法により、ギリシア思想と中国の思想を読み取り、他者に伝える。 ・共通点を考察し、一般化し、パスカルに繋ぐ。 ・この一連の流れから「よく生きる」の意味を考察し、学習課題を振り返る。</p>	<p>【評価規準B】 ・先哲の「よく生きる」の概念を理解している。（知・技） 【Aの視点】 ・先哲の「よく生きる」の概念を自己形成に関連つけて理解している。 【Cの手立て】 ・教え合いの充実を図る 【評価方法】 ・学習プリントの記述内容</p>
2 本時	<p>宗教と人間 「なぜ世界宗教が成立したのか」 ・三大宗教の人間観について読み取り、他者に伝える。 ・三大宗教の人間観の共通点を抽出し、民族宗教と比較しながら世界宗教として成立した要因を考察し、学習課題を振り返る。 ・自分の宗教心についての省察を通して単元の基軸課題について考察する。</p>	<p>【評価規準B】 ・三大宗教のもつ人間観の普遍性について、民族宗教と比較し、具体例を示しながら説明している。（思・判・表） ・人間が普遍的にもつ宗教性と人間観について、自らの立場から考察し、今後の成長や自分自身の人生、他者との関係に生かそうとしている。（主） 【Aの視点】 ・人間の普遍性を自己形成に関連づけている。 ・自己を客観視することで創造性が見られる。 【Cの手立て】 ・教え合いの充実を図る 【評価方法】 ・学習プリントの記述内容</p>
3	<p>近代科学の考え方 「近代科学の考え方はその後の歴史をどう変えたのか」 ・日常の思考方法について考察し、歴史的背景をまとめる。 ・「帰納法」と「演繹法」について理解し、合理的思考の手法として思考実験する。 ・合理的思考が生きている例を考察し、学習課題を振り返る。</p>	<p>【評価規準B】 ・帰納法と演繹法により事象を説明できる。（知・技） 【Aの視点】 ・帰納法と演繹法に社会に関連づけて事象を説明している。 【Cの手立て】 ・教え合いの充実を図る 【評価方法】 ・学習プリントの記述内容</p>
4	<p>人間の尊厳 「個人と社会はどうかかわるべきか」 ・自分の道徳的法則からカントの思想を考察する。 ・弁証法から社会と人間の関わりについて考察する。 ・役割演技により先哲の考えに触れ、社会の中での自己の在り方を考え、学習課題を振り返る。</p>	<p>【評価規準B】 ・道徳法則を社会との関わりに関連づけて説明できる。（思・判・表） 【Aの視点】 ・これからの自己がどのように社会に関わるべきかを示しながら説明している。 【Cの手立て】 ・教え合いと役割演技の充実を図る 【評価方法】 ・学習プリントの記述内容</p>
5	<p>人間性の回復を求めて 「合理主義に問題はないのか」 ・合理主義の問題点を社会背景に照らして問題点を考察する。 ・批判的思考により社会主義や実存主義を考察する。 ・役割演技により、現代のヒューマニズムを考察し、学習課題を振り返る。</p>	<p>【評価規準B】 ・既習事項を批判的に考察し、現代の社会に生かせるよう説明できる。（主） 【Aの視点】 ・自己形成のために創造的に説明している。 【Cの手立て】 ・教え合いと役割演技の充実を図る 【評価方法】 ・学習プリントの記述内容</p>

6	<p>日本の伝統思想の考え方 「われわれの生き方や考え方に、日本の伝統思想はどのような影響をあたえているだろうか」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な事象から伝統的思考の例を考える。 ・仏教伝来以前の思想が考え方に影響を与えている例を考察する。 ・仏教伝来以降の思想が考え方に影響を与えている例を考察する。 ・日本文化の重層構造を考察し、学習課題を振り返る。 	<p>【評価規準B】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近にある伝統思想をあげて、その背景を説明できる。(思・判・表) <p>【Aの視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己形成に関連づけて創造的に説明している。 <p>【Cの手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教え合いと役割演技の充実を図る。 ・事例提示の工夫 <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習プリントの記述内容
7	<p>外来思想の受容と日本人の自覚 「外来思想と伝統思想はなぜ共存しているのか」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・儒教と国学の例を考察する。 ・西洋思想と伝統思想の例を考察する。 ・役割演技により、内容を確認しながら、学習課題を振り返り、今後求められる思想形成を考える。 ・自分自身の意識の変容について考察し、基軸となる問いについて考察する。 	<p>【評価規準B】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近にある外来思想と伝統思想の共存を例にあげて、その背景を説明できる。(思・判・表) <p>【Aの視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己形成に関連づけて創造的に説明している。 <p>【Cの手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教え合いと役割演技の充実を図る ・事例提示の工夫 <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習プリントの記述内容
8	<p>まとめ 「よりよく生きるために、自分はどうあればよいのか」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を基に、単元の基軸となる課題について、考察しレポート化および発表する。 	<p>【評価規準B】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己の生き方や社会との関わりについて、既習事項が関連づけられて表現している。(主) <p>【Aの視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己形成や社会との関わり関連づけて創造的・発展的に表現している。 <p>【Cの手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教え合いと役割演技の充実を図る ・事例提示の工夫 ・チームティーチングの導入 <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポート ・発表

7 アクティブ・ラーニングの視点に関わる実践

「主体的な学び」	<p>【第1時】 単元の学習課題を設定し、解決の見通しをもつ場面</p> <p>【第1～8時】 単元の学習課題について、振り返る場面</p>
「対話的な学び」	<p>【第1～8時】 ペア相手などと理解や考えを伝え合う場面 教科書や資料の精読による教材・先哲との対話 教員の演示を傾聴する場面 事象を振り返り自らのものとする自分との対話</p>
「深い学び」	<p>【第1～7時】 ペア相手などと理解や考えを伝え合う場面学習課題の解決に関わって、自力で調べた内容を基に、自分なりに理解や考えをまとめたり、説明したりする場面 該当時の問いを振り返り省察する場面 基軸となる問いを振り返り、省察する場面</p> <p>【第8時】 既習事項を積み重ね、基軸となる問いを振り返り、省察する場面</p>

8 本時の実践

(第2時)

【展開前半】

学習過程	学習活動 予想される生徒の反応	指導上の留意点 評価規準
課題把握 (5)	1 課題意識をもつ ・自分の「宗教心」について考える。 宗教心はほとんどない ・三大宗教を確認し、その分布状況を教科書資料から読み取る。 ・民族宗教と比較しながら学習課題を設定する。 なぜ世界宗教が成立したのか	・意思表示カードにより授業への積極参加を促し、後半への布石ともする。 ・読み取った事象を表現させる。 ・身近な神社等と比較させる。
課題追究 1 (20)	2 仏教 ・教科書を読み取り、その人間観を「ブッダが言いたかったこと」としてまとめる。 ・用語は精選されたものをプリントに記入する。 3 キリスト教 ・教科書を読み取り、その人間観を「イエスが言いたかったこと」としてまとめる。 ・ペアによる説明と傾聴・返し。役割演技を取り入れる。 4 イスラム教 ・教科書を読み取り、その人間観を「ムハンマドが言いたかったこと」としてまとめる。 ・ペアによる説明と傾聴・返し。役割演技を取り入れる。	・T1が説明し、T2が傾聴し返すという方法を演示し、次の模範を示す。 ・用語の羅列ではなく、本質に触れる視点を持たせるよう教材を適正化する。 ・用語の羅列ではなく、本質に触れる視点を持たせるよう教材を適正化する ・ディーンズについてはT1による説明と鑑賞により関心を深める。 ・隣人愛については補足説明が必要。 ・肖像の空白から偶像崇拜を説明し、理解と関心を深める。「預」の意味や、「喜捨」「断食」なども同様。 ・用語の羅列ではなく、本質に触れる視点を持たせるよう教材を適正化する ・T1, T2, T3が適宜巡回し、生徒をサポートする。
課題追究 (10)	5 課題解決 ・民族宗教の特色を教科書から読み取り記述する ・三大宗教のもつ人間観の普遍性について議論する ・上記の結果をプリントにまとめる	・世界宗教が成立する理由を民族宗教(神道、ヒンドゥー教、ユダヤ教)と比較させようとして記述させる。 【評価規準】(思考・判断・表現) 三大宗教の持つ人間観の普遍性について、民族宗教と比較し、具体性を示しながら説明している。 (プリントの記述)

【展開後半】

学習過程	学習活動 予想される生徒の反応	指導上の留意点 評価規準
課題追究 2 (10)	6-1 自分の宗教心について考える ・導入を受けて課題追究後の自らのおよび他者の変容を確認する。 思考や判断の揺らぎと整理 人間の持つ普遍的な宗教心に気付く ・三大宗教の人間観の普遍性の出発点を考え、自分のものとして把握する。 「基軸となる問い：よりよく生きるために、自分はどうあれば良いのか」について考察し、プリントにまとめる。	・普遍性を個人へ落とし込むことで、基軸となる問いと有機的に関連させる。 ・思考を「揺らす」発問に対して、意思表示カードにより授業への積極参加を促す。 ・「二択誘導」による誘導で着地点に誘導する。 ・宗教学習後の視座の変化を誘う。
課題解決 2 (5)	6-2 「基軸となる問い：よりよく生きるために、自分はどうあれば良いのか」について考察し、プリントにまとめる。(家庭学習課題)	・前時及び本時の成果として、現時点での「基軸となる問い」を考察させる。 【評価規準】(主体的に関わろうとする態度) 人間が普遍的に持つ宗教性と人間観について、自らの立場から考察し、今後の成長や自分自身の人生、他者との関係に生かそうとしている。(プリントの記述)

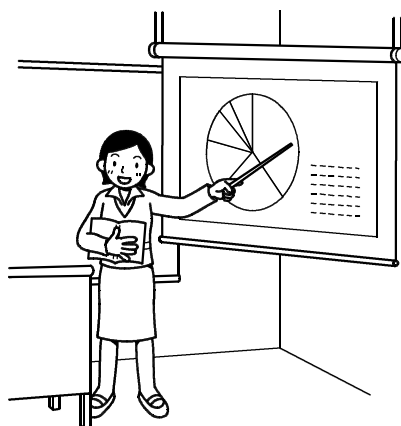
● おわりに

本ガイドブックは、平成27年度に作成した「中学校社会科及び高等学校地理歴史・公民科における『アクティブ・ラーニング型授業』づくりガイド」をその後の次期学習指導要領改訂に向けた検討を反映して改訂・更新を加え平成28年度の研究成果物として発行するものです。

今後、各中学校や高等学校で活用することにより、次期学習指導要領改訂のキーポイントをご理解いただき、よりよい授業づくりを追究していくためにお役立ていただければ幸いです。

研究推進にあたり今年度は、岩手県立岩泉高等学校の先生方及び研究協力員をお引き受けいただいた岩手県立大船渡東高等学校、福岡高等学校、花巻北高等学校、花巻市立花巻北中学校の先生方のご協力をいただき、授業実践の機会を与えていただきましたことに深く感謝申し上げます。来年度も、中学校、高等学校それぞれで本研究理論を基にした授業実践を継続し、その考え方を広めていく予定です。

本研究はまだ途中段階にあります。今後も公的機関等から発信される最新の情報を積極的に取り入れつつ、様々な方面の方々からご意見をお聞きしながら、中・高等学校の先生方が、日常の授業づくりの参考にできるような内容となるよう改訂していきたいと考えております。



★引用文献

岩手県立総合教育センター（2016），『中学校社会科及び高等学校地理歴史・公民科における「アクティブ・ラーニング型授業」づくりガイド』，岩手県立総合教育センター教科領域教育担当，p. 17，19

三藤あさみ・西岡加名恵（2010），『パフォーマンス評価にどう取り組むかー中学校社会科のカリキュラムと授業づくり』，日本標準，P23，25

★参考文献

池谷裕二（2002），『高校生の勉強法』，東進ブックス

岩手県立総合教育センター（2016），『中学校社会科及び高等学校地理歴史・公民科における「アクティブ・ラーニング型授業」づくりガイド』，岩手県立総合教育センター教科領域教育担当

エリザベス＝バークレイ，パトリシア＝クロス，クレア＝メジャー著・安永悟監訳（2009），『協同学習の手法』，ナカニシア出版

大西忠治（1987），『授業づくり上達法』，民衆社

大西忠治（1988），『発問上達法』，民衆社

大村はま（2005），『授業を創る』，国土社

河原和之（2014），『中学校社会科授業成功の極意』，明治図書

北 俊夫（2009），『小学校教育課程講座 社会』，ぎょうせい

ぎょうせい（2016），『子どもの姿が見えてくる評価の方法』

熊本大学教育学部附属中学校（2014），『教えたいたのは「考え方」です。』，学事出版

小林昭文（2015），『アクティブラーニング入門』，産業能率大学出版部

小林昭文・成田秀夫（2015），『今日から始めるアクティブラーニング』，学事出版

小林昭文・鈴木達哉，鈴木映司（2015），『アクティブラーニング実践』，産業能率大学出版部

下町壽男・浦崎太郎・藤岡慎二・荒瀬克美・安彦忠彦・浦上慎一（2016）『アクティブ・ラーニング実践Ⅱ』，産業能率大学出版部

斎藤喜博（2006），『授業入門』，国土社

斎藤喜博（2006），『授業』，国土社

斎藤喜博（2006），『授業の展開』，国土社

佐藤正寿（2014），『小学校社会科授業成功の極意』，明治図書

佐藤正寿（2012），『小学校社会科単元別「キー発問」アイデア』，明治図書

澤井陽介（2013），『小学校社会 授業を変える5つのフォーカス』，図書文化

澤井陽介（2015），『社会科の授業デザイン』，東洋館出版社

澤井陽介（2015），『社会科授業づくりトレーニングBOOK』話合い・討論，学習のまとめ，評価問題づくり編，明治図書

澤井陽介・中田正弘（2014），『社会科授業のつくり方』，東洋館出版社

小学館（2016），『総合教育技術11月号』

ジョージ・ジェイコブズ，マイケル・パワー，ロー・ワン・イン著・関田一彦監訳（2005），『先生のためのアイデアブッカー協同学習の基本原則とテクニク』，日本協同教育学会

杉江修治（2011），『協同学習入門 基本の理解と51の工夫』，ナカニシア出版

鈴木徹 (2016), 『地理公民科におけるアクティブ・ラーニング型授業の進め方に関する研究「序論」』, 岩手県高等学校教育研究会

鈴木徹 (2016), 『教員研修を通しての学校現場へのアクティブ・ラーニング導入』, 日本学校教育学会機関誌『学校教育研究』第31号

田村学, 黒上晴夫 (2014), 『こうすれば考える力がつく! 中学校 思考ツール』, 小学館

中央教育審議会 (2015), 『中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会教育課程企画特別部会における論点整理』及び『補足資料』

中央教育審議会 (2016), 『社会・地理歴史・公民ワーキンググループにおける審議の取りまとめ』

中央教育審議会 (2016), 『次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ』及び『補足資料』

中央教育審議会 (2016), 『幼稚園, 小学校, 中学校, 高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について (答申)』及び【概要】、【別添資料】

西川純 (2015), 『すぐわかる! できる! アクティブラーニング』, 学陽書房

西川純 (2015), 『アクティブ・ラーニング入門』, 明治図書

西川純 (2015), 『高校教師のためのアクティブ・ラーニング』, 東洋館出版社

西村克己 (2011), 『論理的な考え方が面白いほど身につく本』, 中経出版

平田博嗣 (2012), 『中学校社会科単元別「キー発問」アイデア』, 明治図書

堀 裕嗣 (2012), 『一斉授業10の原理100の原則』, 学事出版

堀 裕嗣 (2012), 『教室ファシリテーション10の原理100の原則』, 学事出版

三藤あさみ・西岡加名恵 (2010), 『パフォーマンス評価にどう取り組むかー中学校社会科のカリキュラムと授業づくり』, 日本標準

松下佳代 (2015), 『ディープ・アクティブラーニング』, 勁草書房

溝上慎一 (2014), 『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』, 東信堂

向山洋一 (1985), 『授業の腕をあげる法則』, 明治図書

向山洋一 (1986), 『続・授業の腕をあげる法則』, 明治図書

向山洋一 (2009), 『【新訂】教育技術入門』, 明治図書

向山洋一 (2002), 『熱中する授業は「授業の原則」に貫かれている』, 明治図書

明治図書 (2016), 『社会科教育』7月号~12月号

文部科学省 (2007), 『小学校学習指導要領解説 社会編』

文部科学省 (2007), 『中学校学習指導要領解説 社会編』

文部科学省 (2009), 『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』

文部科学省 (2009), 『高等学校学習指導要領解説 公民編』

横浜国立大学教育人間学部附属横浜中学校 (2015), 『「見通す・振り返る」学習活動を重視した授業事例集』, 学事出版

安永悟 (2012), 『活動性を高める授業づくり 協同学習のすすめ』, 医学書院

R. リチャート, M. チャーチ, K. モリソン著, 黒上晴夫, 小島亜華里訳 (2015), 『子どもの思考が見える21のルーチン』, 北大路書房

★研究協力校

岩手県立岩泉高等学校

★研究協力員

吉 田 優 哉	花巻市立花巻北中学校教諭
齋 藤 信太郎	岩手県立大船渡東高等学校教諭
泉 径 宏	岩手県立花巻北高等学校教諭
外 山 えり子	岩手県立福岡高等学校教諭

なお、総合教育センターにおいては、次の者が作成に当たった。

鈴 木 徹	岩手県立総合教育センター教科領域教育担当主任研修指導主事
泉 田 学	岩手県立総合教育センター教科領域教育担当研修指導主事

平成28年度版

資質・能力の「三つの柱」を総合的に育む授業づくりガイドブック

「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す授業改善

中学校社会科 高等学校地理歴史科・公民科編

発行 岩手県立総合教育センター 教科領域教育担当

〒025-0395 岩手県花巻市北湯口2-82-1

TEL 0198-27-2735

発行日 平成29年3月

